

# 観音寺市観光基本計画



平成 30 年 9 月



## ごあいさつ

近年、人々の価値観やライフスタイルの多様化によって、旅行のスタイルやニーズが変化してきています。従来型の団体旅行などに見られた物見遊山的な観光ではなく、その土地ならではの体験や学び、人々との交流を楽しむ個人旅行など、体験型観光へのニーズが高まってきています。

また昨今、訪日外国人旅行者数が大きな伸びをみせていますが、2020年（平成32年）の東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けて、さらなる伸びが予想されています。

一方、本市に目を向けますと、今後人口減少の局面を迎え、少子高齢化や生産年齢人口の減少に伴う労働力不足、地場産業における後継者不足など、多くの課題に直面することが予想されます。



本市は、これらの環境の変化や今後直面する課題を解決する手段のひとつとして「観光」を活用し、まちの活性化につなげていきたいと考えています。そこで、今後10年間で取組む観光振興の指針として『観音寺市観光基本計画』を策定いたしました。

本計画では、「交流で近づく世界との距離 ～感動都市『観音寺』で新しい豊かさの創造～」を観光の将来像として掲げています。本市には、讃岐山脈と燧灘に囲まれた豊かな自然環境、銭形砂絵や豊稔池堰堤、ちょうさ祭に代表される文化や歴史などの多様な地域資源があり、それらを支える市民がいます。これらのモノ・コト・ヒトをつなぎ、新たな交流を生み出すことで、本市でしか味わうことができない魅力的な観光を創造し、観光振興による交流人口の拡大や消費の拡大を図り、地域の活性化に結びつけてまいります。

今後は本計画をもとに、市民の皆様をはじめ、関係機関・団体・民間事業者、近隣自治体などと連携・協働を図りながら観光振興に取り組んでまいりたいと考えています。地域の皆様のご理解とご協力、積極的な参画をお願い申し上げます。

最後に、観音寺市観光基本計画策定にあたりご多忙のところ熱心にご審議いただきました策定委員会の皆様、作業部会の皆様をはじめ、貴重なご意見等をいただきました関係者各位に厚く御礼申し上げます。

平成30年9月  
観音寺市長 白川晴司



## 目 次

第1章 観光基本計画の考え方	1
1 計画の背景・趣旨	1
2 計画策定の意義	2
3 計画の位置づけ	2
4 計画の対象となる期間	3
5 計画の策定方法	3
第2章 観音寺市における観光の現状と課題	4
1 観音寺市を取巻く観光の現状	4
2 観音寺市における観光の課題	24
第3章 観光基本計画の基本理念と目指すべき将来像	25
1 基本理念	25
2 目指す観光の将来像	25
3 観光基本計画における目標	27
第4章 観音寺市における観光振興の基本方針	28
1 6つの基本方針と主な取り組み	28
2 基本方針の推進体制（組織・連携体制）	36
資料編 観光関係資料・データ	37
1 観音寺市の観光に関する調査	37
2 観光を取巻く政策と統計	43
3 用語の解説	53
計画づくりにご協力いただいた方々	57

# 第1章 観光基本計画の考え方

## 1 計画の背景・趣旨

平成17年10月に1市2町（旧観音寺市、旧大野原町、旧豊浜町）が合併して誕生した観音寺市は、香川県の西端に位置し、面積117.84㎢ 人口59,409人（平成27年国勢調査）のまちです。西は瀬戸内海（燧灘）に面し、三豊市、愛媛県四国中央市、徳島県三好市と隣接しています。県境部分は山地で形成され、沖合には伊吹島をはじめとする島々があり、市域の大部分を三豊平野が占めています。年間平均気温16.5℃、年間総雨量1,133.5mm（平成28年度統計かんおんじ参照）の比較的温暖少雨な地域といえます。

本市の成り立ちは、観音寺地区が、港を核に商業地域を作り、中心市街地の商店街は多くの市民が買い物などで集い、賑わいを創出していました。商業だけでなく水産業や、いりこやかまぼこ等の食品加工業も盛んなことから、近隣の大野原地区や豊浜地区、三豊市、三好市（徳島県）や四国中央市（愛媛県）から多くの人たちが訪れ、地域の交流拠点として賑わってきました。大野原地区は、柞田川水系の南東から北西にかけて緩やかに傾斜した扇状地で、肥沃な土地を利用した農業が盛んです。農業用水を確保するために築造された豊稔池堰堤や数多くのため池を有し、「らりるれレタス」等の農産物が有名であり、農業を主として栄えてきました。豊浜地区は、海に面して広がっており、綿や梨の生産が盛んでした。

現在、本市の人口は約5万9千人であり、平成52年（2040年）には約4万5千人に減少すると推計されています。（平成27年国勢調査とそれに基づく社人研推計値を参照）人口の減少は、地域内消費の減少と、地域経済の縮小につながり、市内の様々な産業分野で利益を出すことができず、地域産業が衰退し、仕事を求め都市部へ流出する若者が増え、さらなる人口減少に歯止めがかからない状況が予想されます。また、少子高齢化がより一層進行することにより、地域産業の担い手不足や事業承継問題に拍車がかかります。このような状況を解決するためには、市外から市内へ消費を呼び込む必要があります。

そのための手段の一つとして、観光が挙げられます。観光は、市外の人々が本市へ訪れることで、飲食、買い物、宿泊などにより、新たな消費が生まれるきっかけを作ります。

本市の観光の現状としては、近年140万人程度の観光客が本市を訪れており、銭形砂絵のある琴弾公園や四国遍路の札所である雲辺寺、神恵院・観音寺に多く訪れています。しかし、観光客が市内で買い物を行っておらず、観光地だけを巡る通過型の観光地となっています。

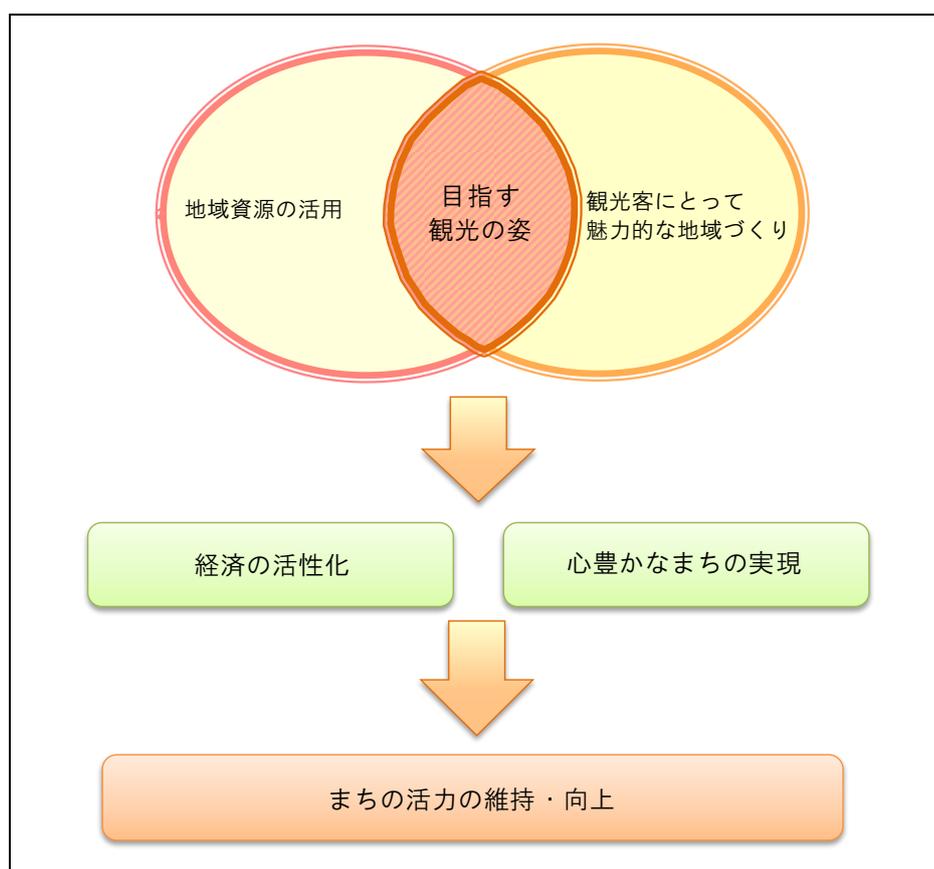
現在、観光客の「観光」に対するニーズは多様化し、「観光」という言葉の捉え方も変わってきています。従来の団体旅行に代表されるような、名所旧跡の見学、食事、土産、温泉、宿泊という旅行形態から、小グループ・家族・個人が日常生活から離れ、様々な体験や学び、新しい人との出会いや感動を求める傾向にあります。

時代の変化の中で、観光業は、従来の窓口であった飲食業、観光施設、土産物店・宿泊業者だけにとどまらず、地域を支えている農林水産業、小売業、情報産業などの観光関連事業者<sup>※1</sup>と、そこで暮らす市民が交流を通して観光に参加できる仕組み作りを進める必要があります。

このような時代の流れを踏まえて、地域固有の資源を生かし、各種産業や様々な業種が観光の振興を図ることで、再び交流の拠点となり、本市の経済の活性化を図ります。さらに、市民が本市に対する誇りを持ち、域外の人をもてなすことができる心豊かなまちであり続けるために、その指針となる観音寺市観光基本計画を策定します。

## 2 計画策定の意義

本計画は、本市の観光の現状を把握し、地域資源<sup>※2</sup>の活用と観光客にとって魅力的な地域づくりの2点を進めることで、経済の活性化と心豊かなまちをつくるための、観光振興の方向性を明らかにします。



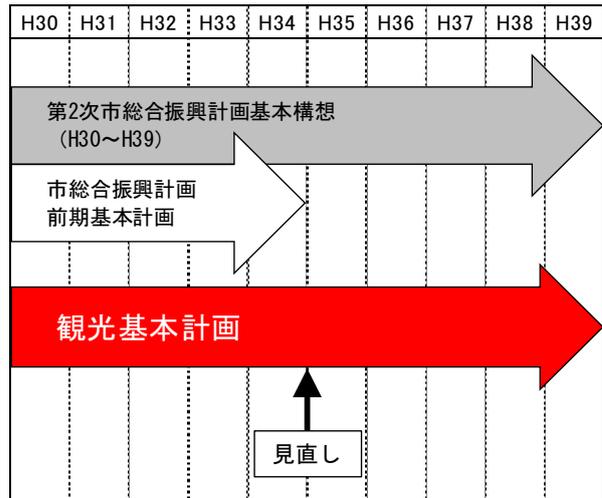
## 3 計画の位置づけ

本計画は、「第2次観音寺市総合振興計画」を上位計画として位置づけ、総合振興計画に掲げる市の将来像を実現するための基本目標に基づき、観光に関する施策を体系的に示したものです。

## 4 計画の対象となる期間

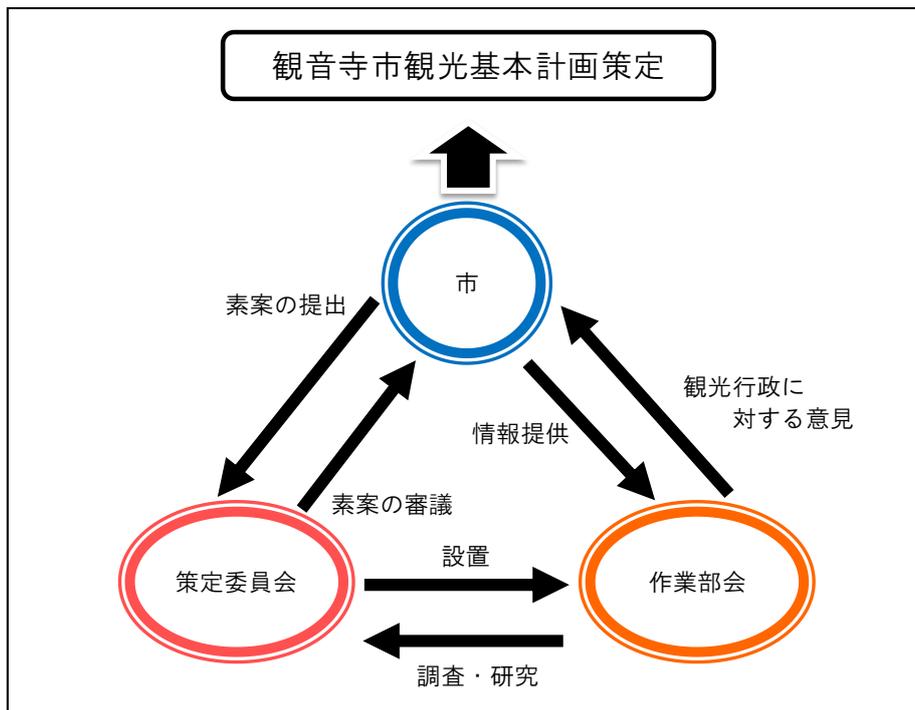
本計画の期間は、平成 30 年度から平成 39 年度までの 10 年間とします。

本計画は、本市の観光を取り巻く環境の変化を見据えながら、長期的な視点による指針を設定するものであり、中間年にあたる平成 35 年度に見直しを行います。



## 5 計画の策定方法

本計画の策定にあたり、多様な地域資源の再構築やネットワーク化の促進を目的として、観光に関する有識者や観光関連組織<sup>※3</sup>の代表、公募による市民等で策定委員会を組織し、計画策定に関する審議を行いました。また、若い世代の地域資源の活用と観光に対する理解を深めるため、市内の若手事業者を中心に作業部会を設置し、本市を取巻く観光の現状を理解し議論する上で必要な調査や研究を行い、計画策定に反映しました。その調査や研究の一環として、本市を訪れる観光客がどのように感じているかを知るために「観光客アンケート調査」を行いました。また、今後の本市を担っていく小中学生が地域資源についてどのように考えているかを知るために「小中学生に対する地域資源意識調査」を行いました。これらに加え、観光客の動向を把握するために、香川県で行ったパラメータ調査など、様々なデータに基づき、本市の観光における現状と課題について整理を行いました。



## 第2章 観音寺市における観光の現状と課題

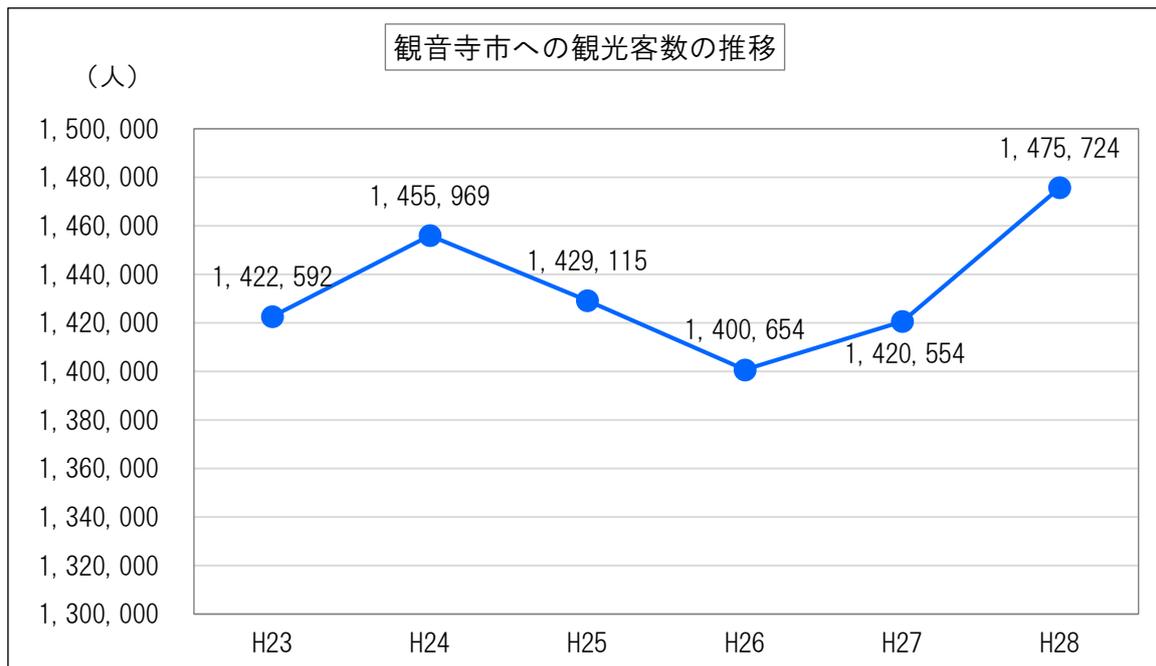
### 1 観音寺市を取巻く観光の現状

#### (1) 観音寺市における観光の現状

本市で調査している香川県観光地点等入込客数調査などをもとに、本市の観光の現状を明らかにします。

##### ◆観光客数の推移

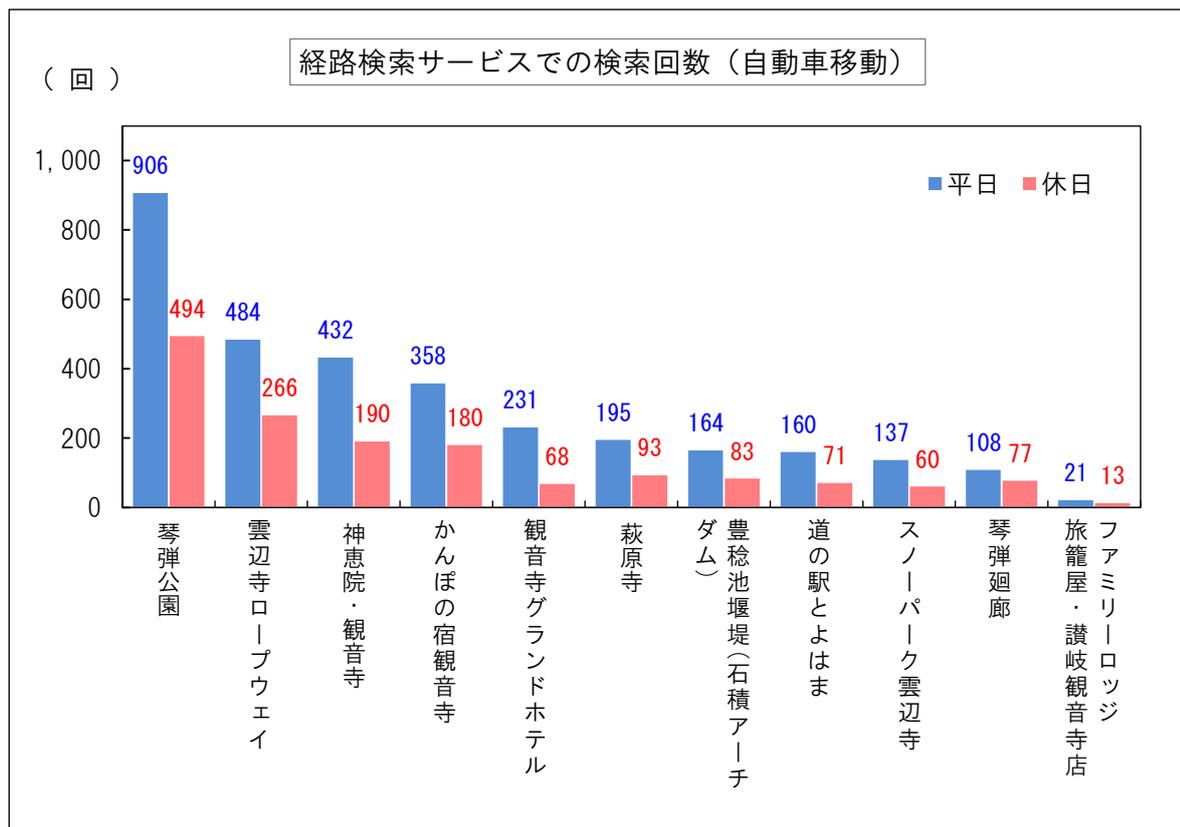
本市の観光客数は、近年140万人程度を推移しており、年ごとに5万人程度の増減を繰り返しています。増減の要因として考えられるのは、四国遍路のうるう年の逆打ちと瀬戸内国際芸術祭等があげられます。平成24年と平成28年はうるう年の逆打ちのため前年に比べ増加しています。また、平成28年は瀬戸内国際芸術祭2016も開催されたため、近年では一番の観光客数となっています。他の要因としては、平成25年に本市において高額の数値選択式全国自治宝くじが当選したことなどもあり、銭形砂絵をはじめとする地域資源が金運のパワースポットとして徐々に注目を集め始めたと考えられます。



\*本市の観光客数は、施設別客数の累計値であり、本市から香川県観光地点等入込客数調査として、香川県へ報告したものです。

### ◆観光客が訪れている市内観光地

自動車移動による本市観光地への経路検索サービスによる検索回数は、平日・休日に係わらず「琴弾公園」が1位、続いて2位が「雲辺寺ロープウェイ」、3位が「神恵院・観音寺」となっており、琴弾公園以外はお遍路客が中心と考えられます。4位に「かんぼの宿」、5位に「観音寺グランドホテル」といった宿泊施設が占めています。6位は「萩原寺」、7位は「豊稔池堰堤」の順となっています。



出典：株式会社ナビタイムジャパン「経路検索条件データ 2015年」を加工して作成

### 観音寺市における観光の現状

近年、本市の観光客数は140万人程度を推移しており、過去3年間は増加傾向です。観光客が多く訪れている観光地は、銭形砂絵のある琴弾公園と四国遍路の札所である雲辺寺ロープウェイや神恵院・観音寺ということがわかります。

## (2) 時代の潮流

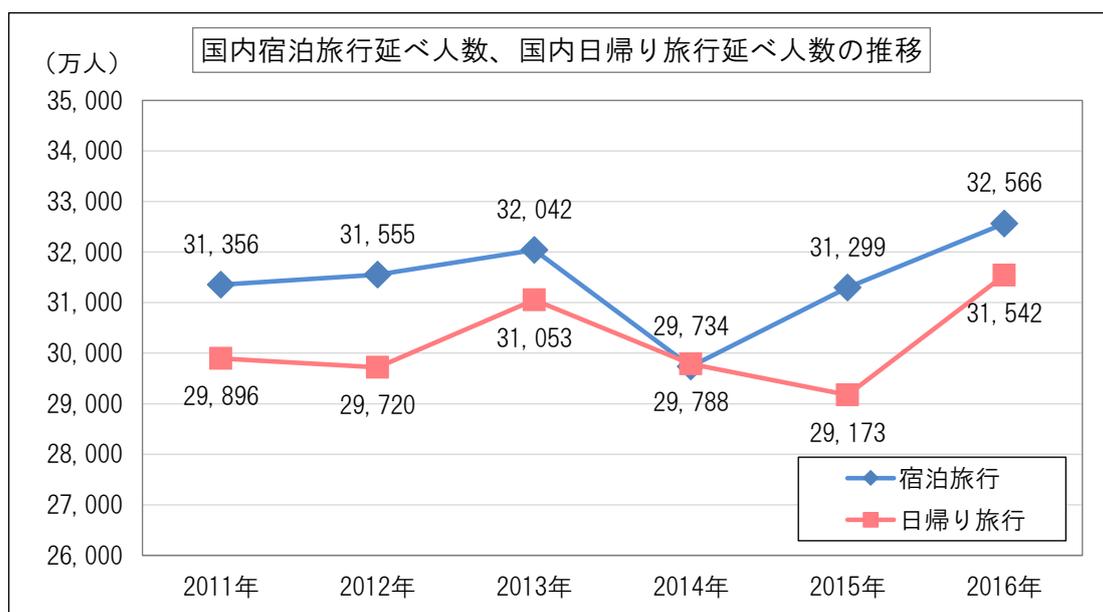
国土交通省の平成29年度観光白書等を参考に、観光における時代の潮流（トレンド）を明らかにします。

### ◆観光産業を取巻く変化

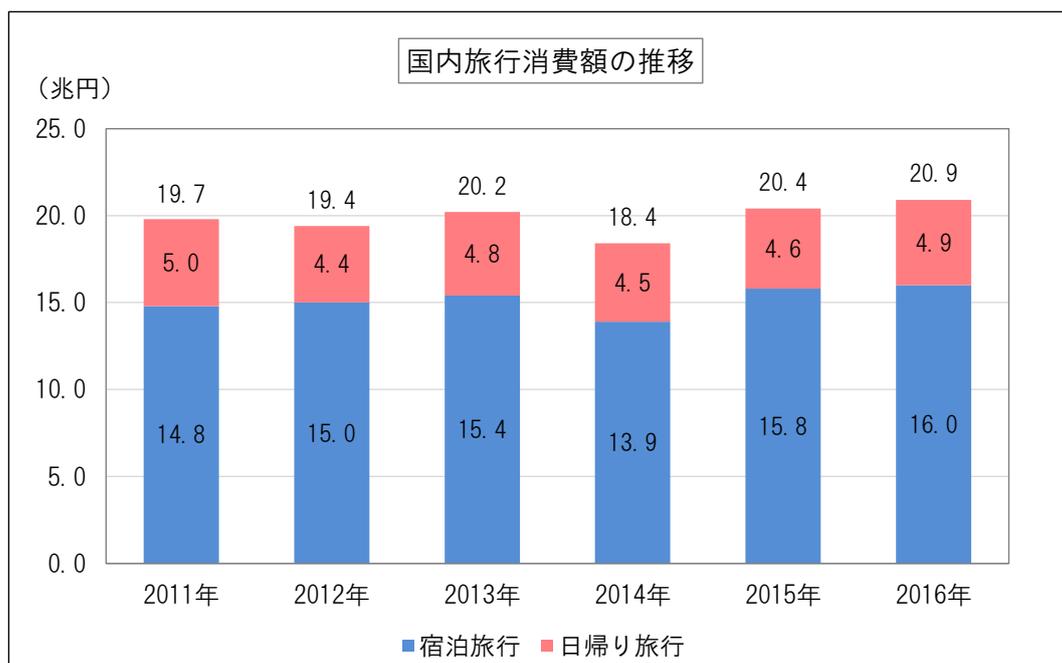
#### ① 国内旅行者数（国内旅行消費額）

2016年（平成28年）の国内旅行延べ人数は64,108万人（宿泊と日帰りを合算した値）であり、近年は60,000万人前後で推移しています。また、国内旅行消費額は20.9兆円でした。国内旅行平均消費額は32,601円でした。

（\*国内旅行平均消費額＝国内旅行消費額÷国内旅行延べ人数）



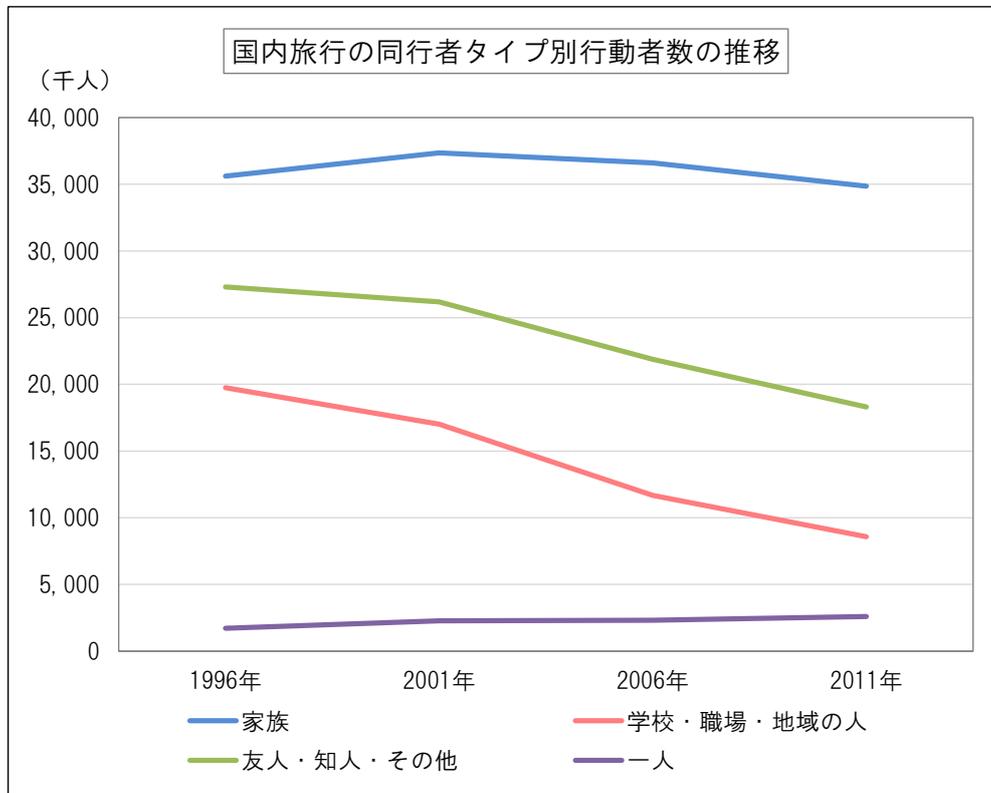
出典：国土交通省「平成29年版観光白書、P26」



出典：国土交通省「平成29年版観光白書、P26」

## ② 国内旅行の同行者タイプ

「家族」が最も多く、近年は少し減少しています。その次に「友人・知人・その他」、「学校・職場・地域の人」が続きます。1996年（平成8年）から大きく減少傾向です。最後に「一人」となっており、増加傾向にあります。



出典：国土交通省「平成29年版観光白書、P58」

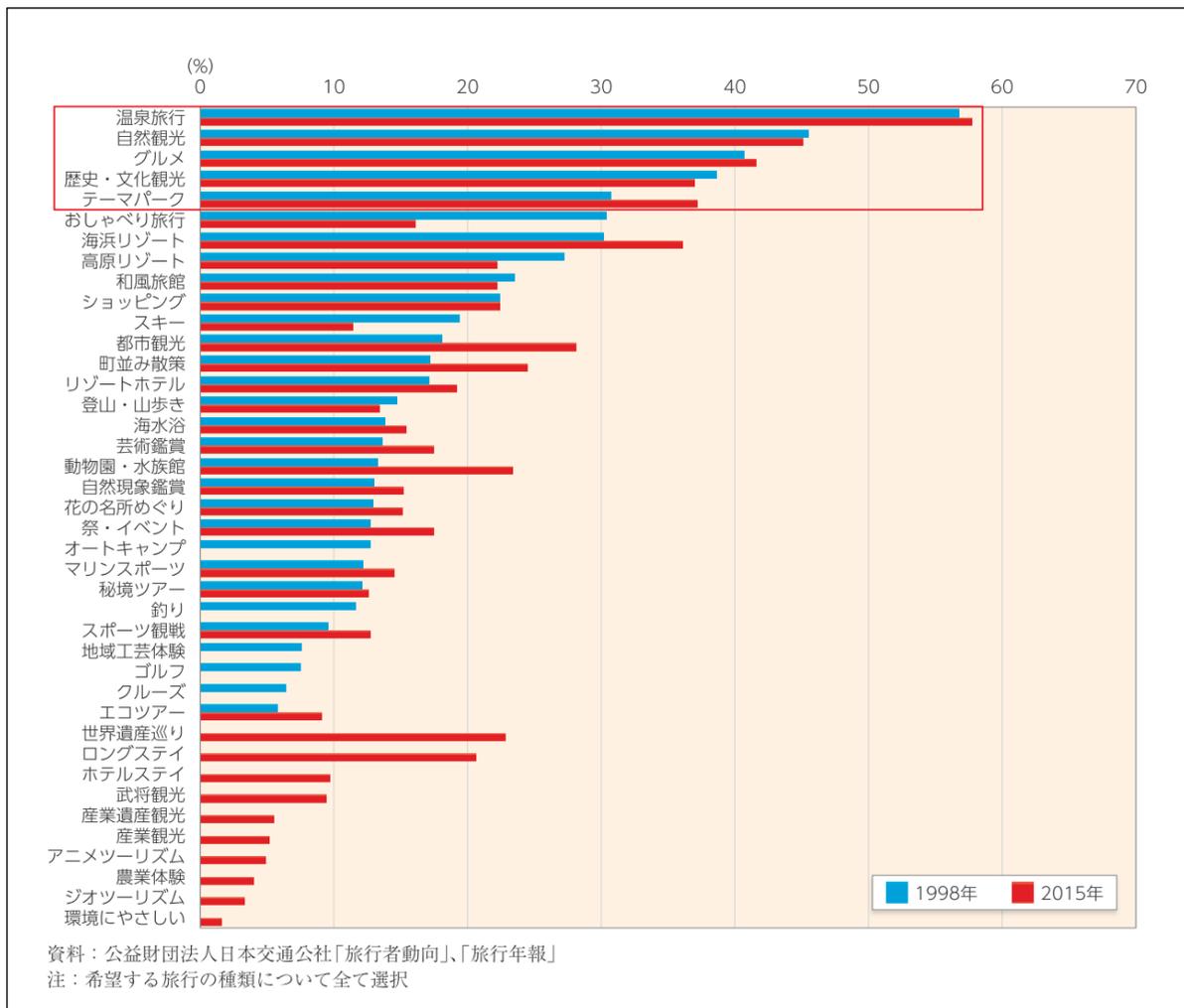


地引網漁体験

③ 希望する国内旅行の種類比較（1998年・2015年）

前回調査から引き続き、「温泉旅行」「自然観光」「グルメ」「歴史・文化観光」「テーマパーク」が上位に位置しています。また、前回調査と比べて旅行の種類が増えており、観光客のニーズが多様化しています。本市でも取り組んでいる「町並み散策」は町の人との交流を組み込むなどの、滞在の仕方を工夫することで、観光客の満足度を向上させる可能性があります。

希望する国内旅行の種類比較（1998年・2015年）

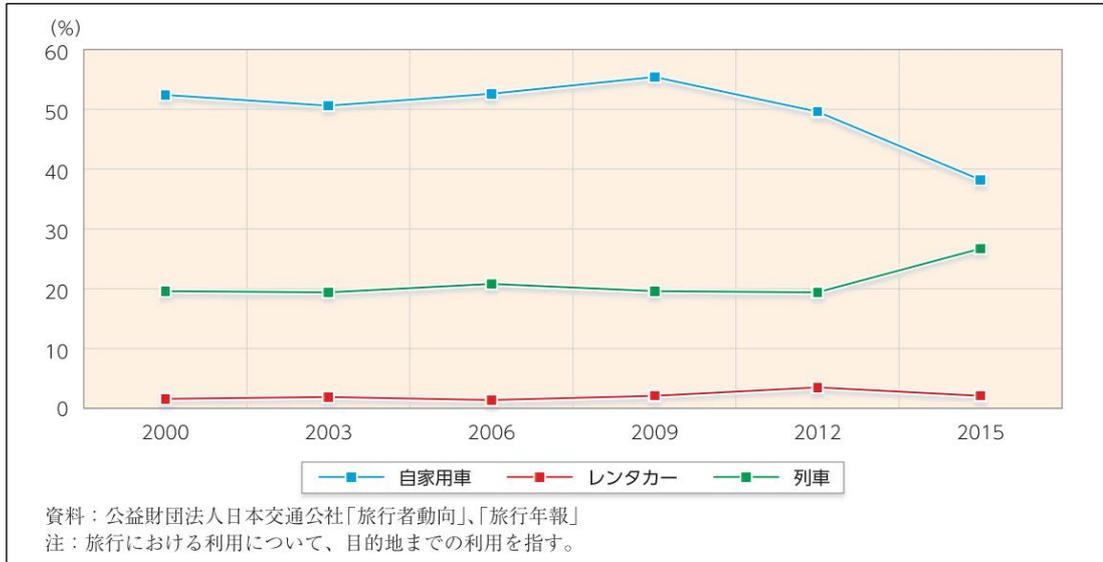


出典：国土交通省「平成29年版観光白書、P50」

#### ④ 交通手段の変化

利用割合のトップは「自動車」です。しかし、2009年（平成21年）から自動車の利用割合が低下し、2015年（平成27年）には40%を下回っています。それとは逆に、列車利用割合が増加しています。本市へ訪れる観光客の移動手段は自動車が大半ですが、交通手段の変化に着目し、他の移動手段へ対応する方法の検討が必要です。

旅行における車の利用割合（目的地までの利用）



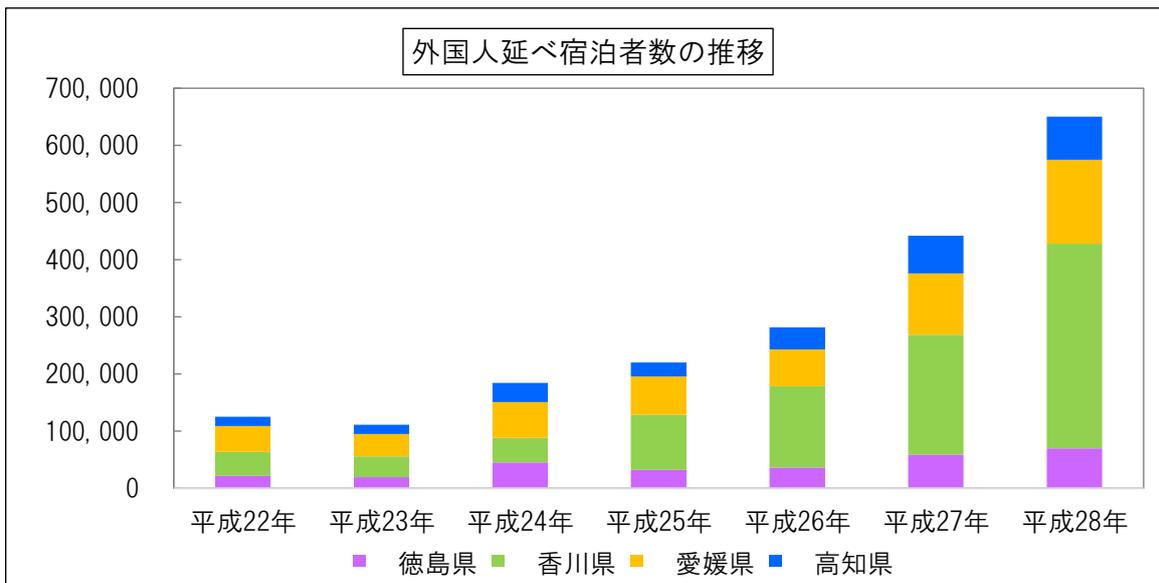
出典：国土交通省「平成29年版観光白書、P50」

⑤ 訪日外国人旅行者の増加

香川県における訪日外国人旅行者は、平成 22 年の 42,100 人から平成 28 年には 358,360 人と約 8.5 倍に増えています。

2016 年 7 月に高松空港に香港の格安航空会社（LCC<sup>※4</sup>）が就航するなど国際線の拡充や瀬戸内国際芸術祭の開催などにより観光客が増加しており、今後もこの傾向が続くと考えられます。

そのため、香川県を訪れている訪日外国人旅行者が本市に滞在するための対策が必要です。



出典：観光庁（宿泊旅行統計調査）

時代の潮流

全国の国内旅行平均消費額は 32,601 円でした。また、国内旅行の同行者タイプでは、家族旅行や友人と、職場の団体旅行は多いものの減少傾向であり、一人旅が増加しています。その影響を受けて、希望する国内旅行の種類も多様化しています。交通手段については、自動車を利用する人が多いものの、減少傾向であり、列車を利用する人の割合が増えています。また、香川県内を訪れる訪日外国人旅行者は年々増加しています。

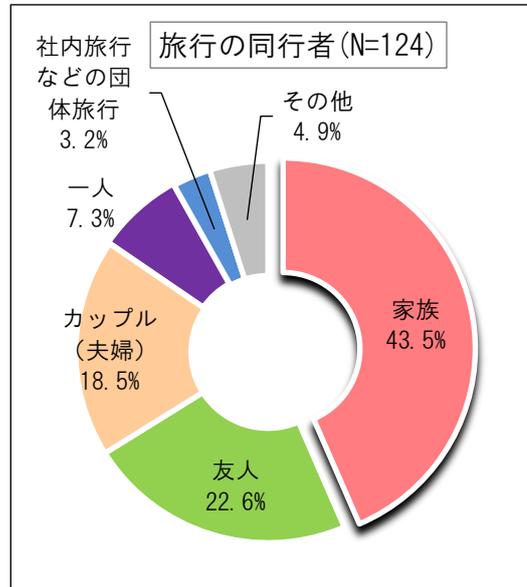
### (3) 観音寺市を訪れる観光客の現状

#### ◆観光客アンケート調査

観光客に対して、平成29年7月29日から8月5日にかけて、琴弾公園と豊稔池堰堤（遊水公園）においてアンケート調査（回答者124名）を実施しました。

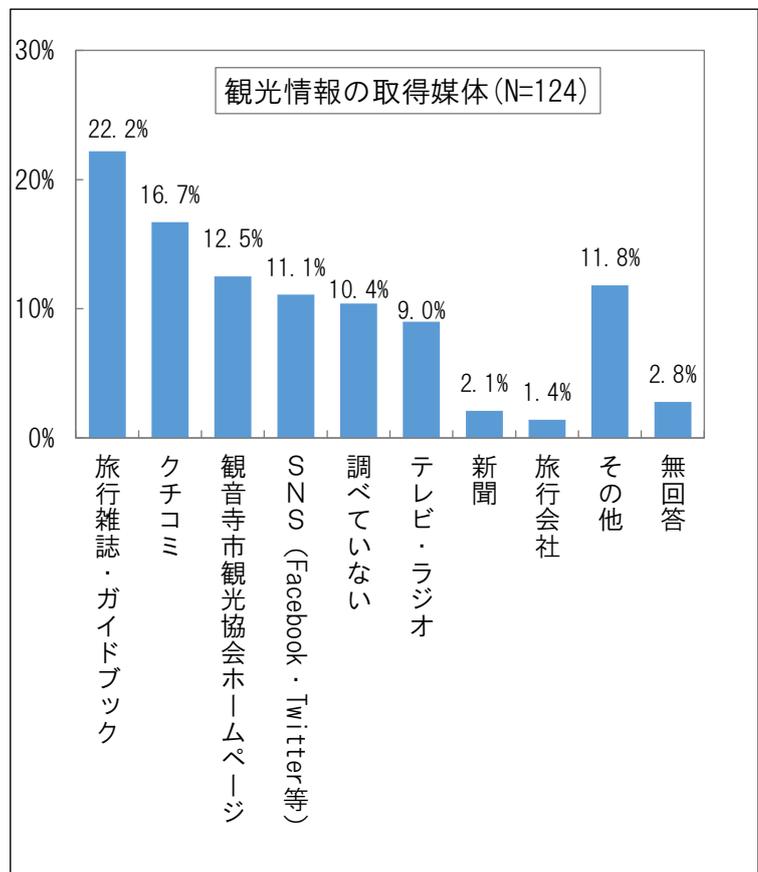
##### ① 旅行の同行者

同行者では、家族が最も多く43.5%、カップル（夫婦）の18.5%を含めると62%となります。次が友人の22.6%で、一人旅は7.3%と低くなっています。



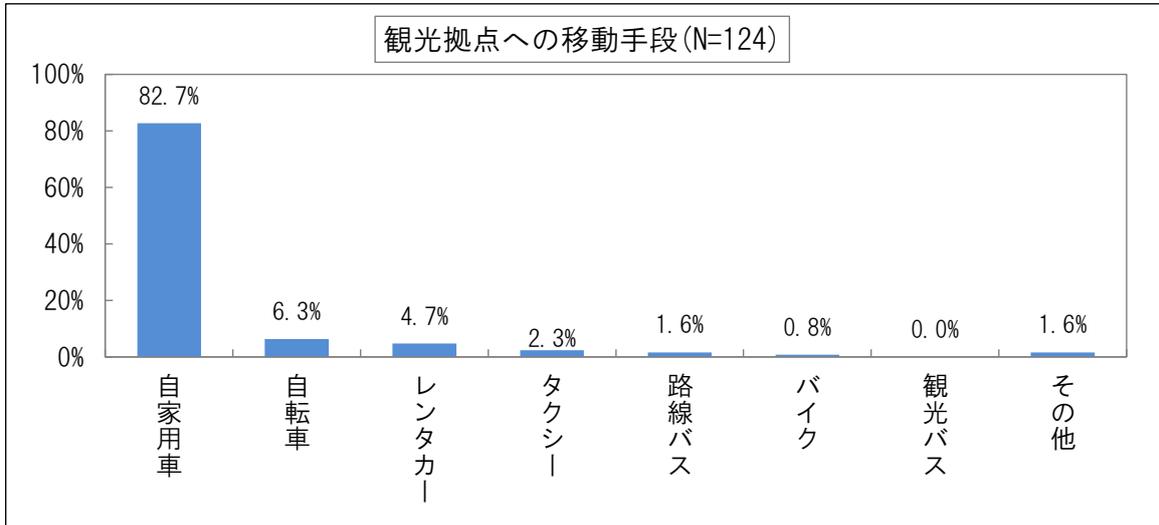
##### ② 観光情報の取得媒体

本市の観光情報を取得する媒体としては、旅行雑誌・ガイドブックが一番多く、その次がクチコミ、観光協会ホームページ、SNS※5の順となっています。



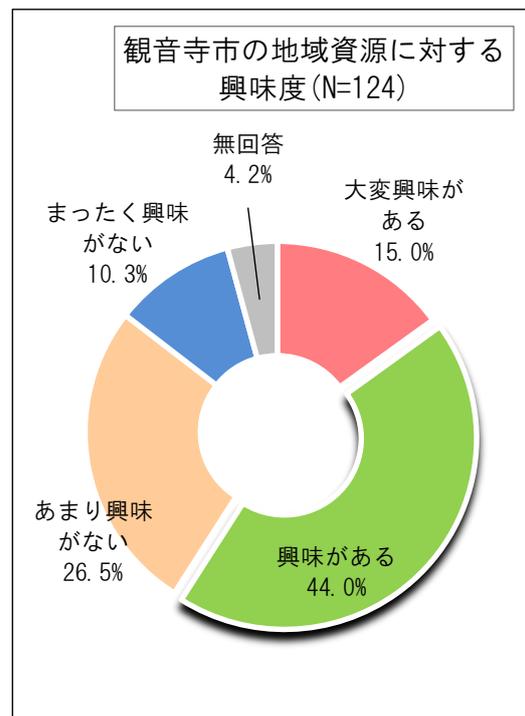
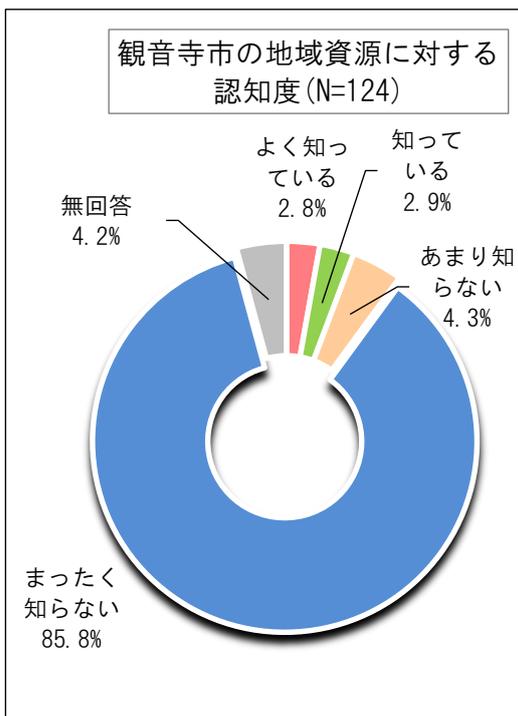
③ 観光拠点への移動手段

自家用車の移動が圧倒的に多くなっています。

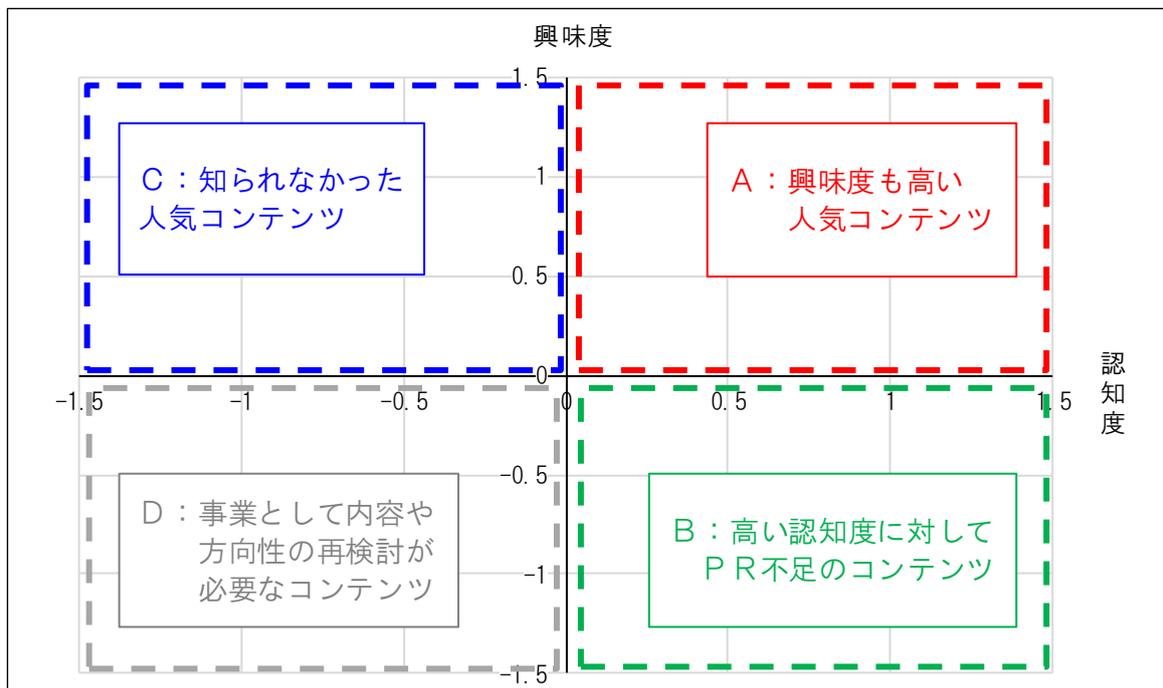


④ 地域資源に対する認知度・興味度

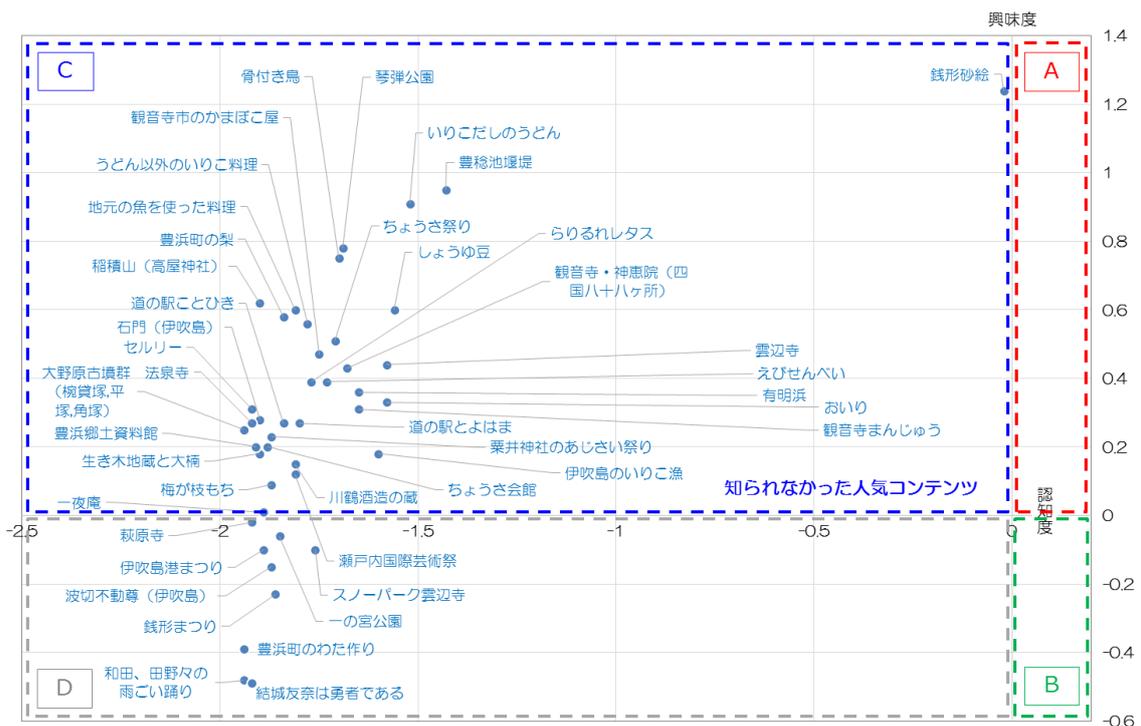
観光客の地域資源に対する認知度・興味度は下図のとおりで、観光客が市内のほとんどの地域資源を認知していないことがわかります。一方で、認知度は低いですが興味度は高いものは、地域資源を知ること興味を持つ可能性があることがわかります。



また、認知度・興味度を組み合わせ、本市の地域資源ごとのイメージギャップを計測しました。イメージギャップ区分は、次のとおりです。



本市の地域資源をみると、ギャップイメージCの地域資源が多く、AやBの地域資源はありませんでした。ギャップイメージCは、認知度が向上することにより、人気の地域資源になる可能性を秘めています。観光客に対してのヒアリング時、こちらから地域資源の説明を行うと、観光客から訪れてみたい、食べてみたい等の声がありました。

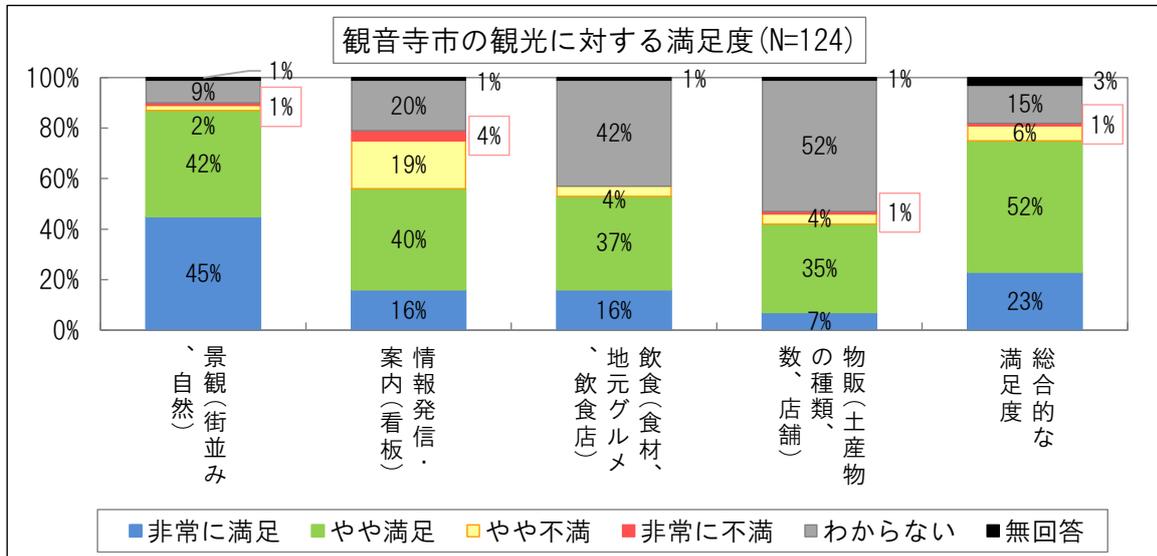


地域資源別の認知度・興味度

⑤ 観音寺市の観光に対する満足度

街並みや自然の景観に対する評価は高く、総合的な満足度も高評価です。しかし、情報発信・案内に対して、不満、やや不満が見られます。

総合的な満足度は、非常に満足が23%、やや満足が52%でした。

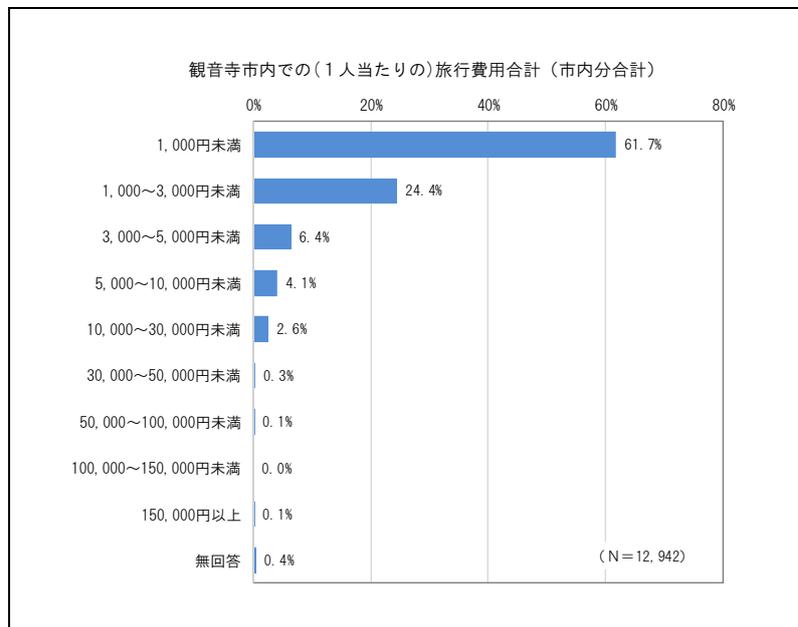


◆観光に関するアンケート調査（平成24年度）

平成24年6月23日から平成25年3月10日までの期間、市内観光地点等で観光客（回答者数12,878人）に対してアンケートを行いました。市内観光地点等は、銭形砂絵／琴弾公園、有明浜、豊稔池堰堤、一夜庵、神恵院・観音寺、萩原寺、法泉寺、道の駅とよはま、一の宮公園・海岸、雲辺寺ロープウェイ／スノーパーク雲辺寺、あじさい祭り（粟井神社）、銭形まつり、萩まつり、さぬき豊浜ちょうさ祭、琴弾八幡宮大祭、大平正芳記念館、道の駅ことひきです。

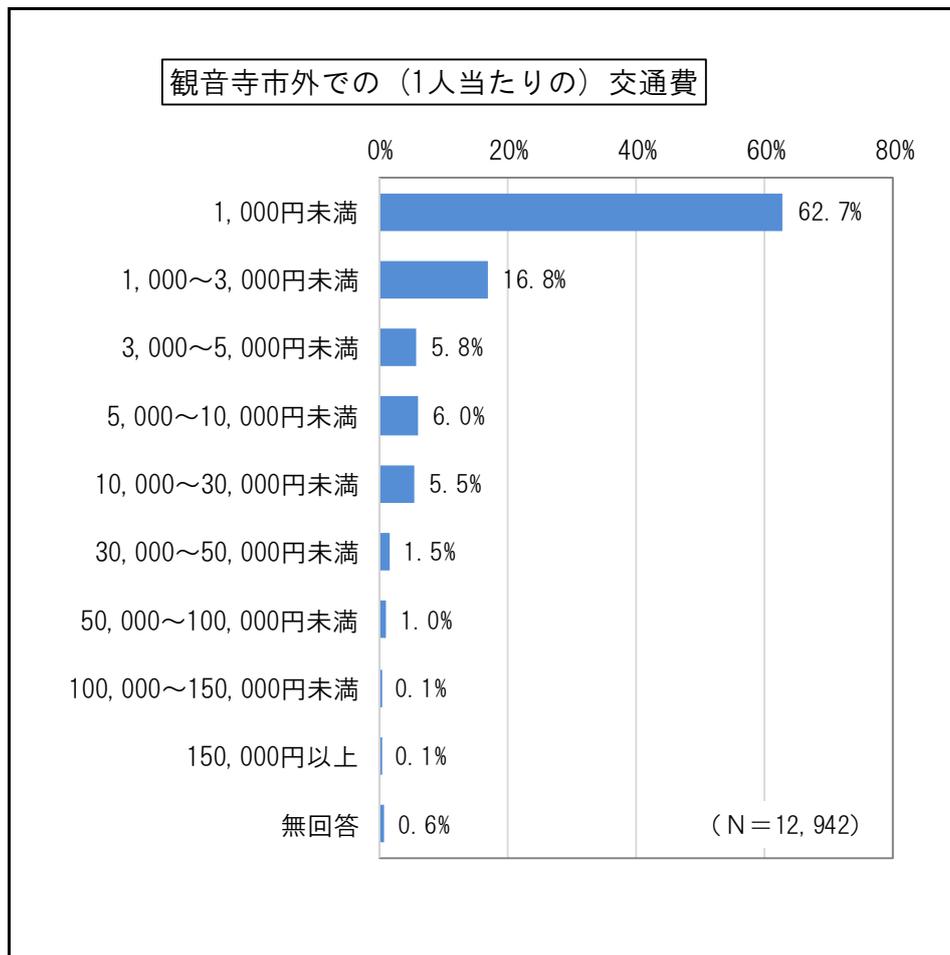
① 旅行費用合計（市内分合計）

本市内での旅行費用合計（市内分合計）は1,000円未満が大半を占め、平均は1,841円でした。



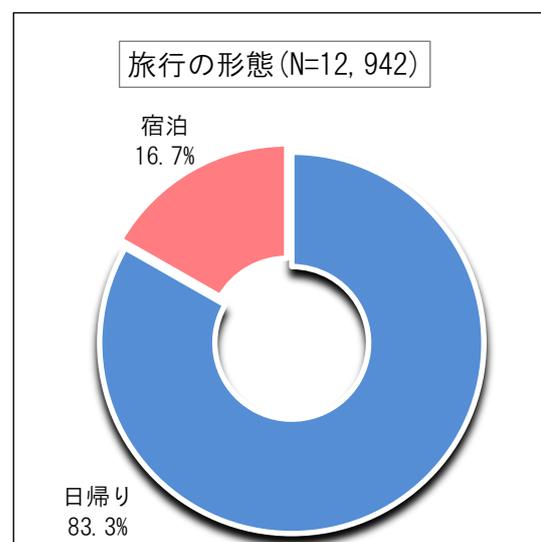
② 交通費（市外分）

本市外での交通費は1,000円未満で大半を占め、平均は3,178円でした。



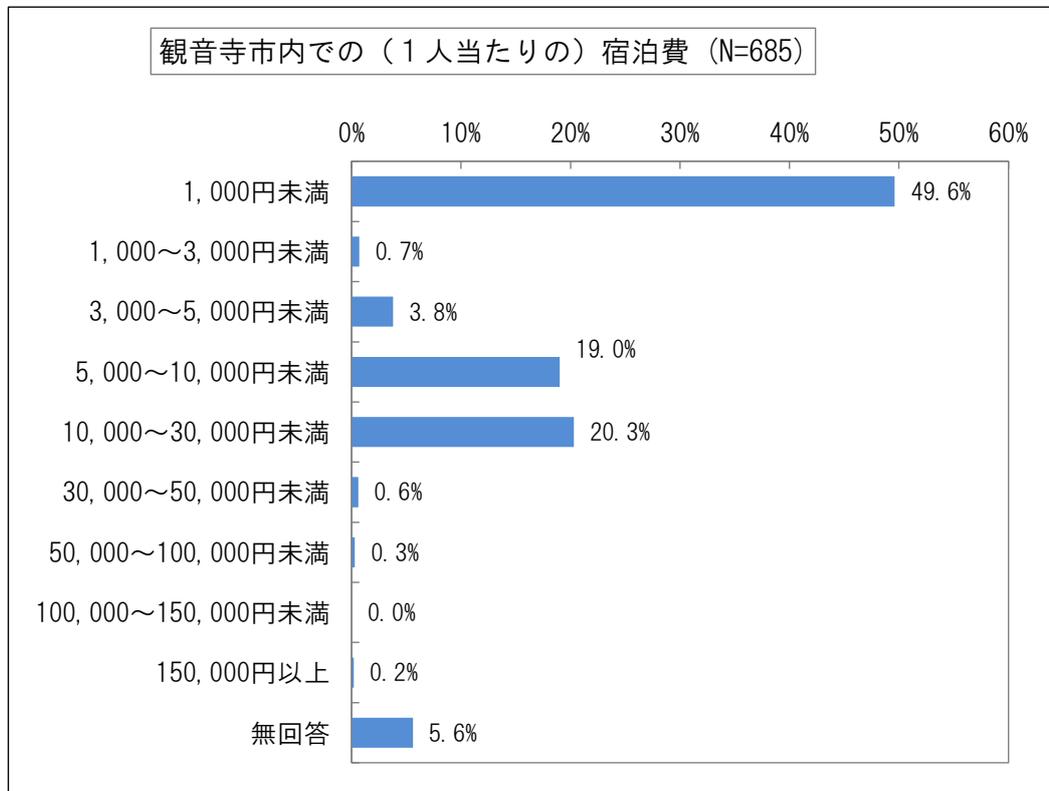
③ 観光客の旅行の形態

旅行の形態は、日帰りが83.3%、宿泊が16.7%となっており、多くの観光客が本市で宿泊をしておらず、日帰り旅行の割合が大きくなっています。



また、宿泊した人達の約過半数は、実家や親戚・友人宅で宿泊しており、宿泊費をかけていませんでした。

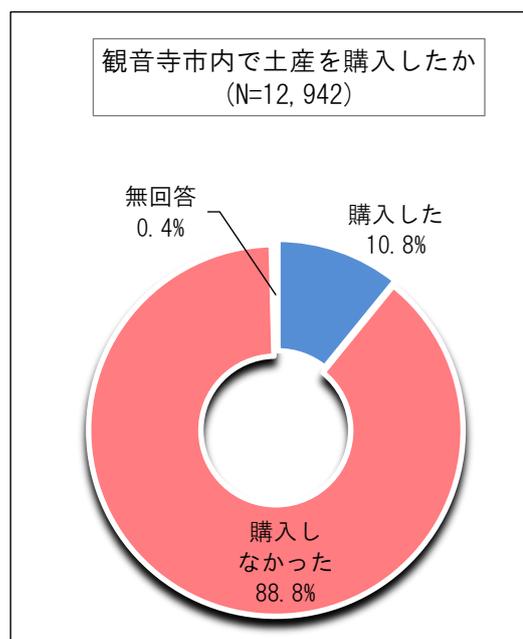
また、本市に宿泊した人の宿泊費は、10,000円～30,000円未満が約2割、5,000円～10,000円が約2割で、平均宿泊費は4,898円でした。



#### ④ 市内での土産代

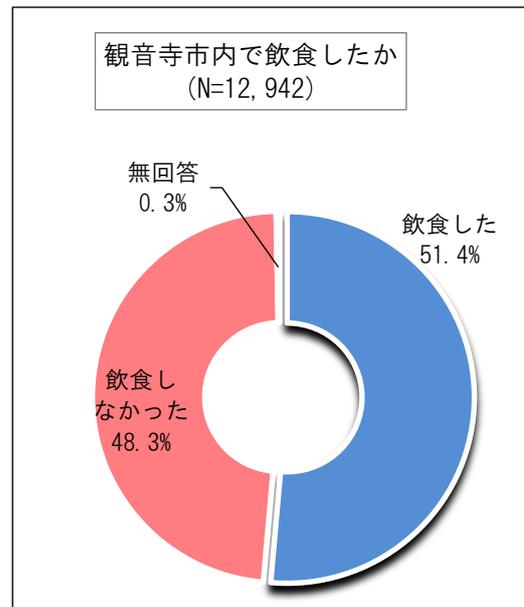
本市で土産を購入した人は、約1割で、ほとんどの人が市内で土産を購入していません。

また、土産を購入した人の約半分が1,000円未満で、次に1,000円～3,000円未満が4割と続き、土産を購入した人の土産代の平均は、1,384円となっています。



#### ⑤ 市内での飲食費

市内で飲食した人は、約5割を占めています。また、消費者一人当たりの『飲食費』については、もっとも多い金額帯が1,000円未満で約6割を占め、次いで1,000～3,000円が約4割と続き、一人当たりの平均は1,121円となっています。



#### 観音寺市を訪れる観光客の現状

本市を訪れた観光客の旅行費用合計（市外交通費含む）は平均5,019円でした。このことから、本市の旅行費用は全国の旅行平均消費額に比べて小さいことがわかります。本市で宿泊している人のうち半数は実家や知人・友人宅となっています。また、土産を購入した人や飲食を行った人の消費額は1,200円程度でしたが、消費していない人が多くいました。

旅行の形態としては日帰り旅行が多く、滞在時間が短いことがわかります。観光拠点への移動手段としては、自動車が圧倒的に多く、観光情報の取得媒体としては、旅行雑誌・ガイドブックやクチコミが多くなっていました。本市の旅行の満足度としては、非常に満足した観光客の割合が23%でした。

これらのことから、一人当たりの観光消費額を引き上げる必要があります。そのために、満足度の向上や、リピーターの増加、肯定的なクチコミの増加が有効です。また、本市を訪れる観光客に対して、地域資源の情報を発信し、認知を促すことで、本市の地域資源に興味を持ってもらい、本市を訪れたときに、長く滞在してもらうよう働きかける必要があります。

#### (4) 地域の特徴と観光に対する市民の意識

観光客が滞在するためには、そこでしか味わうことができない魅力を提供する必要があります。そのためには、歴史や文化、自然等の地域の魅力を生かし、観光客にその魅力を伝えることができる市民が必要です。

ここでは、地域の特徴と本市の魅力を伝える主体となる市民の意識を明らかにします。

##### ◆観音寺市の地域の特徴

本市の特徴は、豊かな景観と貴重な歴史文化に育まれた人々の営み、そして、四国の交通の結節点であることです。

- 四国のほぼ中央に位置し、交通の要衝として発展してきたまち
- 海・島・街・山・川など様々な地域資源を有するまち
- 温暖な気候で、暮らしやすいまち
- 貴重な歴史文化を有するまち
- 食品加工業が発展したまち

##### ■地域資源一覧（作業部会で挙げられたものの一例）

観光地・景色	観音寺	銭形砂絵、琴弾公園、一夜庵、神恵院・観音寺（四国八十八ヶ所）、川鶴酒造の蔵、有明浜、波切不動尊（伊吹島）、石門（伊吹島）、道の駅ことひき、稻積山（高屋神社）
	大野原	雲辺寺、スノーパーク雲辺寺、豊稔池堰堤、生木地藏と大楠、法泉寺、大野原古墳群（椀貸塚・平塚・角塚）
	豊 浜	一の宮公園、ちょうさ会館、豊浜郷土資料館、姥ヶ懐池、高尾山、道の駅とよはま
イベント・文化	ちょうさ祭、銭形まつり、粟井神社のあじさい祭り、伊吹島港まつり、伊吹島のいりこ漁、和田・田野々雨乞踊、豊浜町のわた作り、瀬戸内国際芸術祭、アニメ「結城友奈は勇者である」	
食・グルメ	らりるれレタス、セルリー、豊浜町の梨、銘菓観音寺、梅が枝もち、おいり、えびせんべい、しょうゆ豆、食品加工業（かまぼこ水産練製品）、地元の魚を使った料理、いりこだしのうどん、うどん以外のいりこ料理、骨付き鳥	

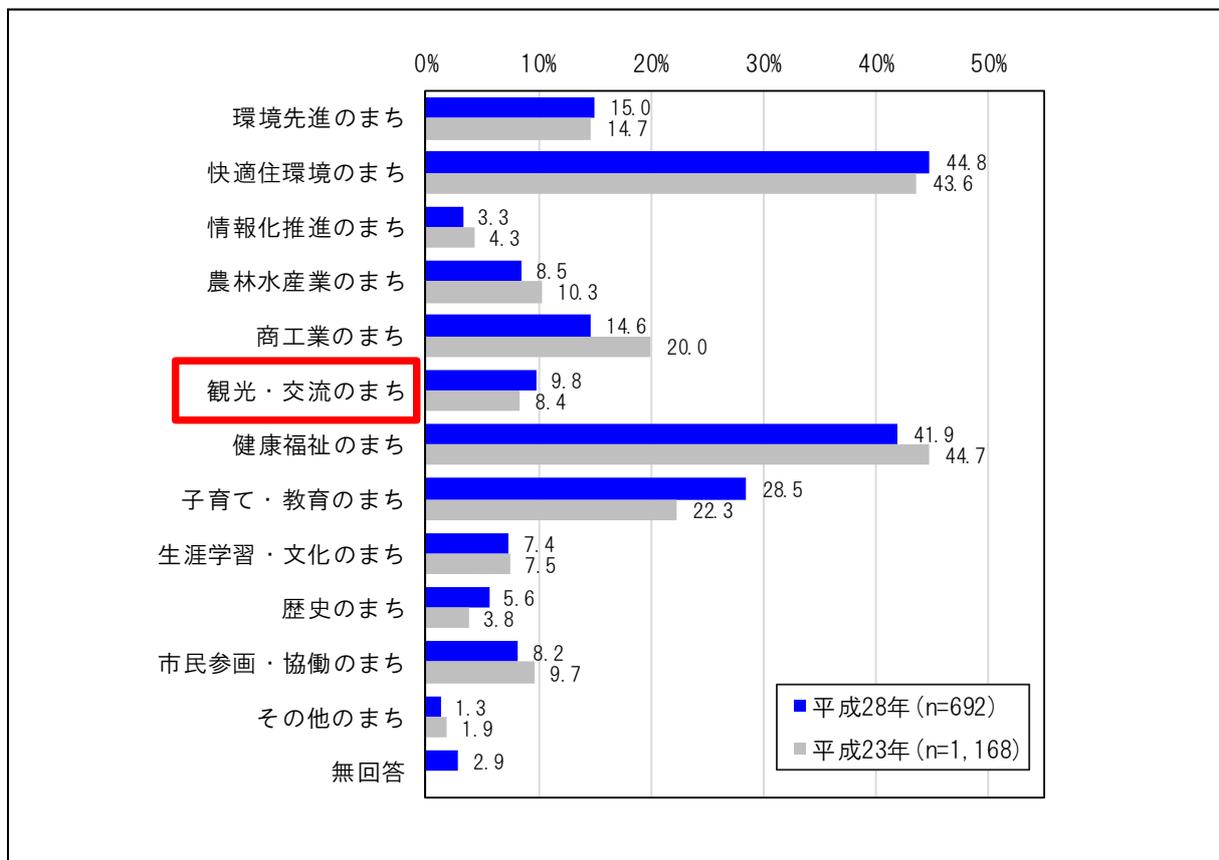
◆市民アンケート調査結果

平成 28 年 9 月に実施した第 2 次観音寺市総合振興計画策定に関する市民アンケート調査（市内在住 18 歳以上の市民 697 人が回答）では、今後のまちづくりの方向についての質問に、観光・交流のまちづくりは 12 個の選択肢の中で 6 番目に位置付けられています。

今後の本市が目指すまちづくりの方向性として、快適住環境のまちづくりや健康福祉のまちづくりという選択肢に比べると割合が小さく、観光・交流のまちづくりを望む市民は多くありません。

しかし、前回調査（平成 23 年 9 月）に比べると、観光・交流のまちづくりを望む市民の割合は少し増加しており、瀬戸内国際芸術祭やよるしるべ等の地域資源を活用し、観光客を迎える取組の中でいただいたポジティブなご意見から市民の意識が変わってきていると考えられます。

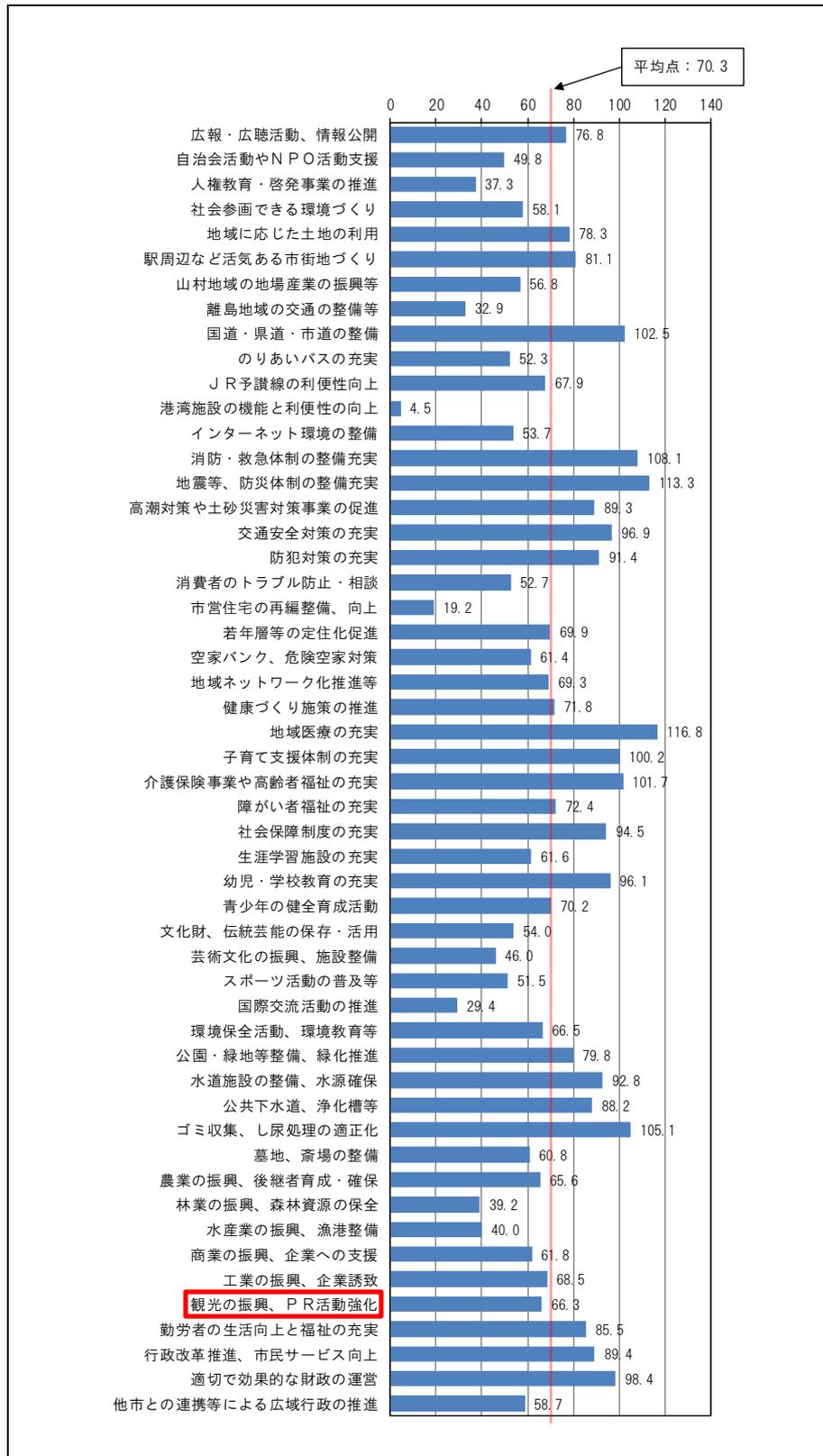
《本市が目指すまちづくりの方向性》



出典：第 2 次観音寺市総合振興計画策定に関する市民アンケート調査

第2次観音寺市総合振興計画策定に関する市民アンケート調査の施策評価の中で、「観光の振興、PR活動強化」の施策について重要度を調査すると、平均値よりやや低くなっており、現状では以下のような結果が出ています。

《重要度評価》



出典：第2次観音寺市総合振興計画策定に関する市民アンケート調査

#### ◆観音寺市内の小中学生に対する地域資源意識調査

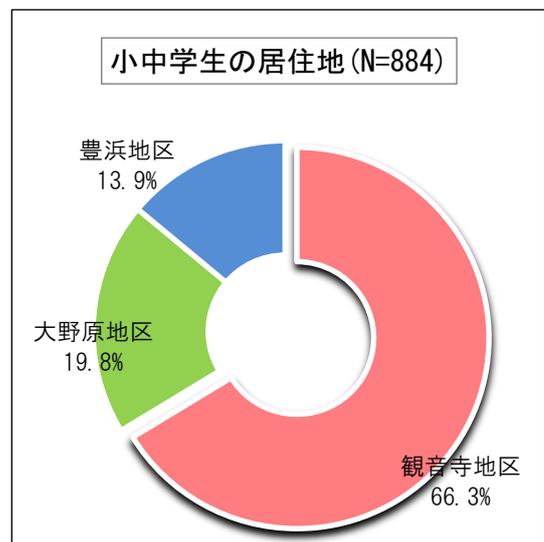
平成 29 年 7 月に市内の小学 6 年生及び中学 2 年生を対象に「地域資源に対する意識調査」を実施し、これからの本市を担って行く若い世代が地域資源をどのように認識しているかを調査しました。

##### ① アンケート数

- ・小学校：430 人（観音寺小学校 85 人、高室小学校 28 人、常磐小学校 51 人、柞田小学校 70 人、豊田小学校 19 人、粟井小学校 12 人、一ノ谷小学校 37 人、伊吹小学校 3 人、大野原小学校 71 人、豊浜小学校 54 人、）
- ・中学校：454 人（観音寺中学校 115 人、中部中学校 96 人、伊吹中学校 6 人、大野原中学校 104 人、豊浜中学校 69 人、三豊中学校 64 人）

##### ② 地区別の小中学生の割合

小中学生は、観音寺地区（66.3%）が最も多く、次いで大野原地区（19.8%）、豊浜地区（13.9%）となっています。



##### ③ 地域資源の認知度・興味度

小中学生の認知度、興味度は次のページのとおりです。

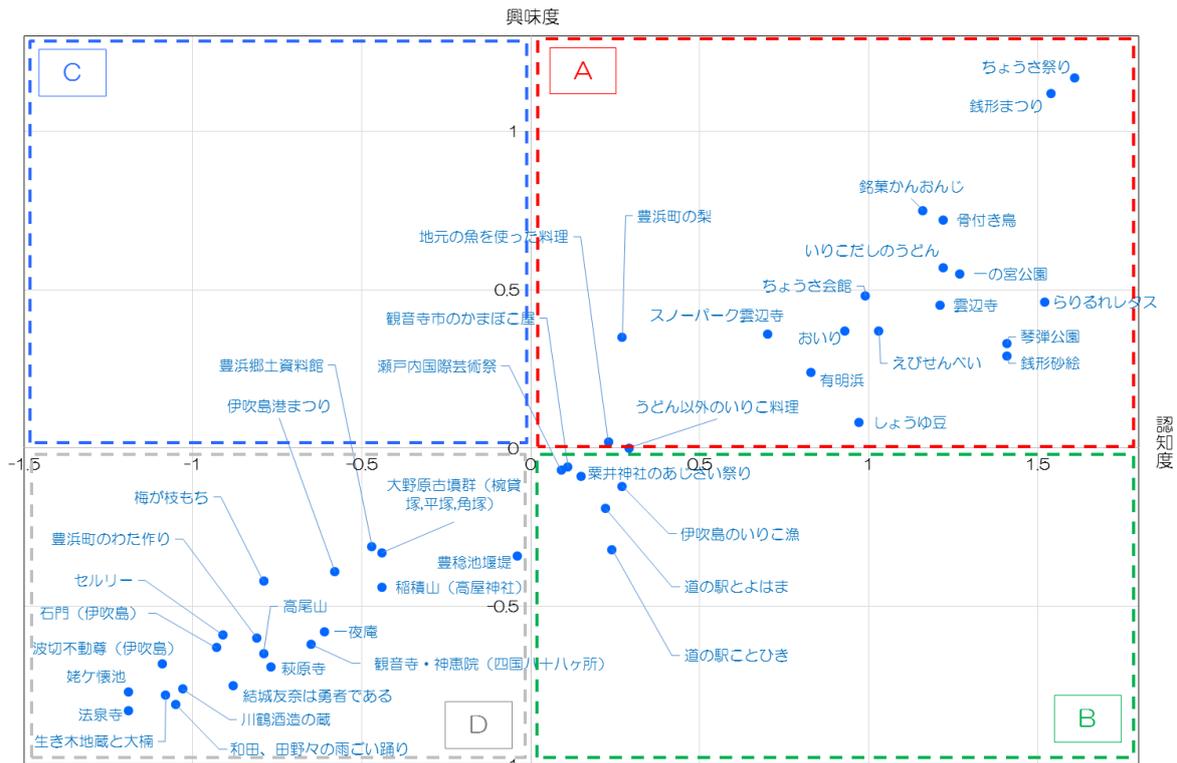
認知度・興味度が高い地域資源は、ちょうさ祭、銭形まつり、らりるれレタスで、イベントや食べ物は、認知度・興味度ともに高い人気コンテンツとなっており、地区別にみても、それぞれ上位 10 位以内に入っています。

一方、観光地や景色、史跡などの文化に対する認知度・興味度は、全体的に低くなっていました。

地区別に認知度・興味度が高い地域資源をみると、それぞれの地区においてばらつきがみられます。

次のページの地区別地域資源の認知度・興味度について高いものは、観音寺地区で、琴弾公園、銭形砂絵、大野原地区で、雲辺寺・大野原古墳群（椀貸塚・平塚・角塚）、豊浜地区で、一の宮公園、ちょうさ会館でした。

このことから、小中学校ごとで行われている「ふるさと学習」などの地域学習を通して、各地域の地域資源を知り、歴史や文化を学んでいることがわかります。



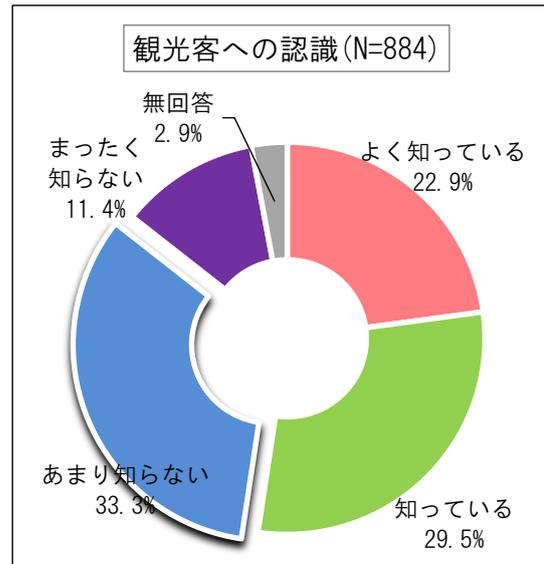
\* 認知度・興味度の区分（A～D）については、p15 参照。

■地区別 地域資源の認知度・興味度（上位 10 位）

評価順	全体	観音寺地区	大野原地区	豊浜地区
1	ちょうさ祭	銭形まつり	ちょうさ祭	ちょうさ祭
2	銭形まつり	ちょうさ祭	銭形まつり	豊浜町の梨
3	らりるれレタス	銘菓かんおんじ	一の宮公園	一の宮公園
4	骨付き鳥	骨付き鳥	雲辺寺	ちょうさ会館
5	銘菓かんおんじ	琴弾公園	大野原古墳群（貸椀塚・平塚・角塚）	銭形まつり
6	一の宮公園	らりるれレタス	らりるれレタス	らりるれレタス
7	いりこだしのうどん	いりこだしのうどん	スノーパーク雲辺寺	骨付き鳥
8	琴弾公園	銭形砂絵	ちょうさ会館	道の駅とよはま
9	銭形砂絵	有明浜	骨付き鳥	いりこだしのうどん
10	雲辺寺	雲辺寺	いりこだしのうどん	おいり

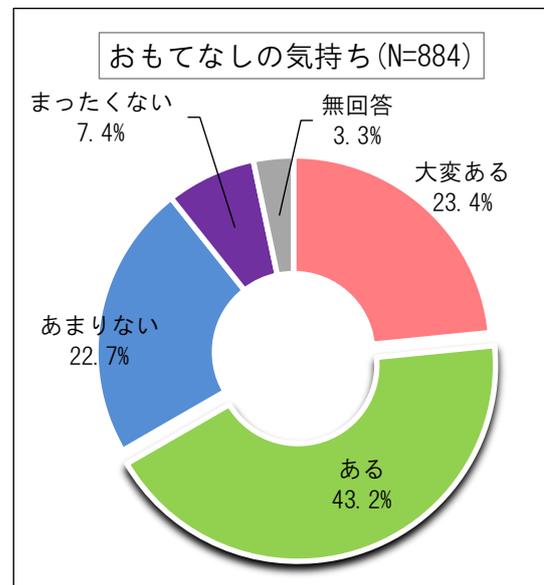
④ 観光客への認識

観光客が本市を訪れているかについて、小中学生が認識しているか調査すると、あまり知らない(33.3%)、まったく知らない(11.4%)となっています。



⑤ 「おもてなし」の気持ち

本市を訪れた観光客に「おもてなし」をする気持ちがあるかについては、ある(43.2%)が最も多く、次いで、大変ある(23.4%)となっています。



地域の特徴と観光に対する市民の意識

地域の特徴として、交通の拠点であり、狭い範囲の中で様々な自然と貴重な歴史文化を有しているということ、自然災害が少ないことが挙げられます。

また、市民アンケートの中で、まちづくりの方向性や施策の重要度から市民は観光に対して、あまり関心が高くありません。その一方で、本市の将来を担う若い世代の小中学生の約7割が観光客に対する「おもてなし」の気持ちを持っています。しかし、約半数の生徒は、本市に観光客が訪れていることをあまり知りませんでした。たくさんの小中学生に観光客が来ていることを知ってもらい、「おもてなし」するために、観光客と交流する場を作る等、市民が観光に参加できる仕組みが必要です。

## 2 観音寺市における観光の課題

各調査結果から、本市における観光の現状として、「観光消費額」「市民の観光に対する関心」という2点に分けて考えます。

「観光消費額」について、本市は5,019円、全国は32,601円と全国平均に比べて小さいことがわかりました。また、観光客でお土産を購入した人は約1割であり、市内で飲食した人は約半数でした。また、本市を訪れる観光客は、本市の地域資源に対する認知度がとても低いことがわかりました。

「市民の観光に対する関心」について、観光振興やPR活動強化の施策は他の施策の関心に比べると平均を下回っていました。

以上のことから、以下の3つの課題があげられます。

### 魅力的な観光地づくり

観光消費額の増加を目指すためには、観光客の本市における滞在時間を延長する必要があります。そのために、地域資源を活用した魅力的な観光地づくりが重要になります。

そこで、観光客が訪れるきっかけとなる体験プログラムやまち歩き等の商品開発と本市を訪れた観光客が快適に滞在できるための受入体制の整備、広域連携による地域ごとの強みを生かした魅力づくりが必要です。

### 市民が観光に参加できる仕組みづくり

市民の観光に対する関心はあまり高くありませんでした。魅力的な体験プログラムやまち歩き等の商品を開発するためには、本市の歴史や文化・自然の中で育ち、市の魅力を伝えることができる市民の参加が重要です。

そこで、市民の観光に対する参加意識の向上を促し、観光について学び、市民が主体的に本市の観光を進めていく仕組みづくりが必要です。

### 情報収集・整理・発信

本市の地域資源に対して、観光客の認知度は低く、観光客と本市の小中学生が興味を示すものに相違がありました。また、市民の観光に対する関心はあまり高くなく、小中学生は本市へ観光客が訪れていることをあまり知りませんでした。

そこで、市民や観光客が興味を持ち、行動につながるための情報を届けることができるように、情報を集め、整理し、発信することが必要です。

## 第3章 観光基本計画の基本理念と目指すべき将来像

### 1 基本理念

本市は、豊かな自然環境、文化や歴史など多様な地域資源を持ち、それらの魅力を磨き、観光客に届けることで、観光客が「観音寺市」を訪れるきっかけとなります。地域資源を活用し、観光振興を行うことで、人口減少とまちの活力の低下という地域の課題を解決し、第2次観音寺市総合振興計画の将来像である『みんなで奏でる“にぎわいやすらぎときめき”の都市（まち）～元気印のかんおんじ～』の実現を目指します。そこで、「市民が幸せになる観光」「観光客が幸せになる観光」「市が持続発展できる観光」の3つを観音寺市観光基本計画の基本理念とします。

基 本 理 念
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 市民が幸せになる観光</li><li>・ 観光客が幸せになる観光</li><li>・ 市が持続的に発展できる観光</li></ul>

（市民が幸せになる観光）

- ・ 地域固有の価値を観光として提供することで、市民と観光客が交流し、ともに感動し、相互の共感を呼びます。市民が地域に対する誇りと当事者意識を育み、地域で幸せに暮らすことができる観光を目指します。（シビックプライドの醸成）

（観光客が幸せになる観光）

- ・ 市内の地域資源を掛け合わせることで、本市でしか体験できない価値を観光客へ提供し、観光客が満足できる観光を目指します。（観光客満足度の向上）

（市が持続的に発展できる観光）

- ・ 観光客が本市で滞在することにより、市内で観光消費を生みだします。波及効果として、雇用の増加、地域社会の活性化につながる観光を目指します。（観光消費額の向上）
- また、多くの人が本市を認知し、訪れてみたい、住んでみたいと思われるように情報発信を行います。（シティプロモーションの推進）

### 2 目指す観光の将来像

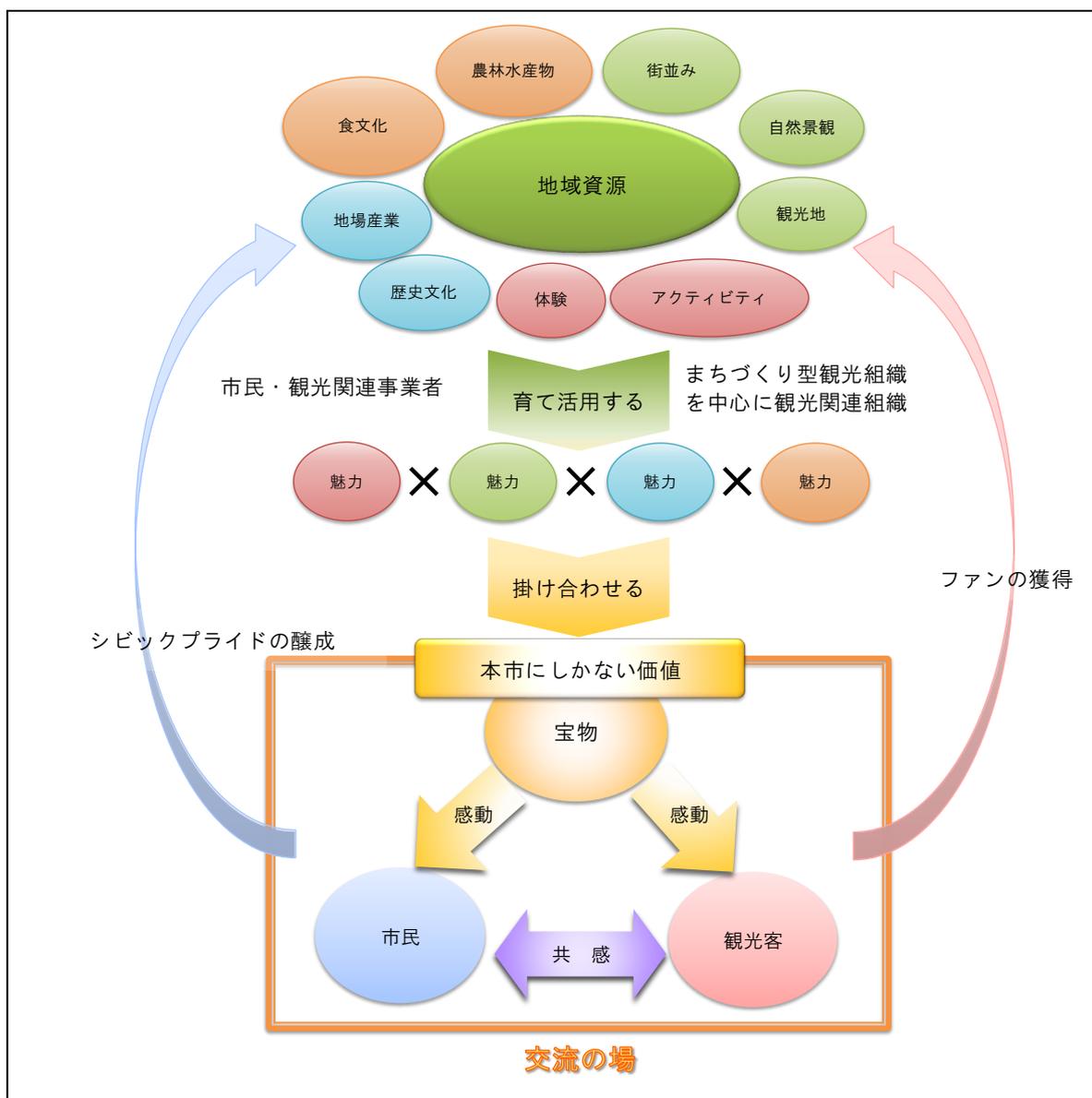
市民と観光客が交流するということは、市外の人（世界）が本市へ訪れ（近づく）、にぎわいを創出することです。そして、市民と観光客が本市でしか体験できない豊かさを、共に体験し、互いに感動することを本市の目指す観光の将来像とします。

## 交流で近づく世界との距離

### ～感動都市『観音寺』で新しい豊かさの創造～

本市が目指す観光の将来像は、様々な地域資源を市民や観光関連事業者が育て活用することで、地域の魅力を創出することです。その魅力を掛け合わせ、本市でしか体験することができない価値を生み出し、その価値を市民と観光客が共感します。そうすることにより、市民には、地域に対する誇りと当事者意識の醸成（シビックプライドの醸成）、観光客には、満足度の向上によりリピータの増加、そして、本市のファンを獲得することに繋がります。さらに、その過程を循環させることで持続可能な仕組みを作り、観光振興を推進します。また、まちづくり型観光組織<sup>※6・7</sup>を中心とした観光関連組織が、市民や観光関連事業者を支援することで、観光に参加する市民や本市を訪れる観光客の規模拡大を図ります。

目指す観光の将来像イメージ図



### 3 観光基本計画における目標

観音寺市観光基本計画における目標は、経済の活性化とシビックプライドの醸成、本市の地域資源の認知向上を目指して、以下の項目を設定します。

目 標	現状値 (平成 28 年度)	前期計画目標値 (平成 33 年度)	後期計画目標値 (平成 38 年度)
観光消費額	7,403 百万円	7,875 百万円	8,387 百万円
観光客数	1,475 千人	1,500 千人	1,525 千人
平均観光消費額	5,019 円	5,250 円	5,500 円
観光客に占める宿泊者の割合	16.70%	19.00%	22.00%
観光客の満足度	23%	35%	50%
市民の幸福度	6.26	6.5	6.75
観光・交流のまちづくりを望む市民の割合	9.8%	12.0%	15.0%
観光協会ホームページのアクセス数	150,240 回	190,000 回	240,000 回

#### ■各指標の数値について

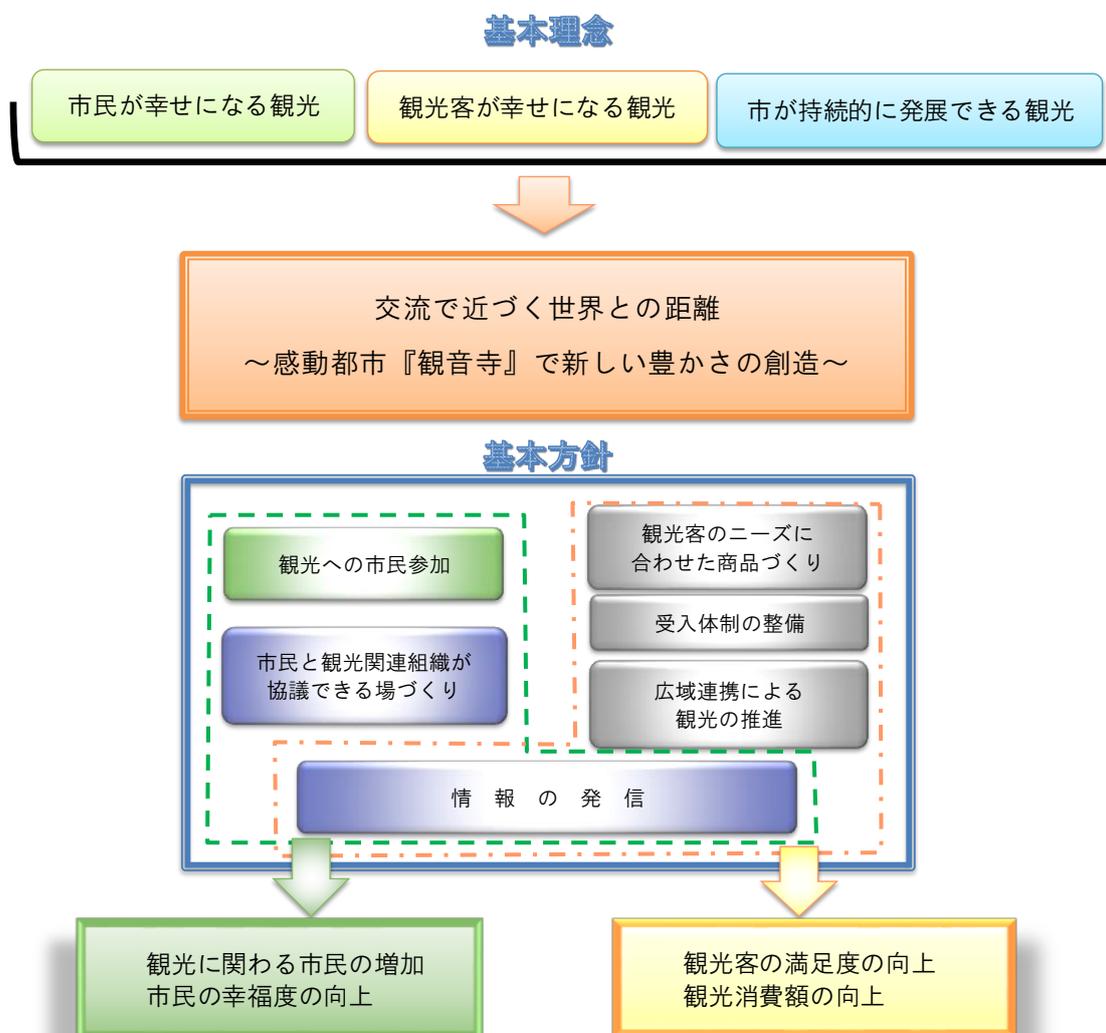
- ・観光客数は香川県観光地点等入込客数調査市報告分、P 6 参照
- ・平均観光消費額、観光客に占める宿泊者の割合の現状値は、平成 24 年度観音寺市観光に関するアンケート調査結果報告書、P 16、17 参照（平成 33 年度、平成 38 年度にアンケート調査を行う予定）
- ・観光客の満足度は観光客アンケート調査（P 16）の非常に満足の項目を参照
- ・市民の幸福度は、観音寺市総合振興計画策定に関する市民アンケート調査結果の問 11（現在の幸福度）を参照
- ・まちづくりの方向性は、観音寺市総合振興計画策定に関する市民アンケート調査結果の問 9（今後のまちづくりの方向）を参照

## 第4章 観音寺市における観光振興の基本方針

### 1 6つの基本方針と主な取り組み

基本理念と観光の目指すべき将来像を踏まえ、本計画の基本方針を下記の6つとしました。

- 基本方針1：観光への市民参加
- 基本方針2：市民と観光関連組織が協議できる場づくり
- 基本方針3：観光客のニーズに合わせた商品づくり
- 基本方針4：受入体制の整備
- 基本方針5：広域連携による観光の推進
- 基本方針6：情報の発信



## 基本方針 1 : 観光への市民参加

### 基本方針

「観光が地域の暮らしを守るための1つの手段である」という認識を市民に対して広く伝えます。そして、本市にある自然や歴史文化、地場産業などの地域資源を活用した観光に対して、多くの市民が興味を持ち、参加することができる仕組みづくりを推進します。

### 【背景】

市民や観光関連事業者が観光に関わるためには、地域資源に誇りを持つことが必要です。また、その関わりを持続していくためには、観光に関わることで、自分や地域が豊かになることを理解してもらうことが必要です。

本市では、地域資源を生かした取り組みとして、伊吹島で3年に一度開催される瀬戸内国際芸術祭や本市を舞台とした「結城友奈は勇者である」のアニメツアーリズムが定着し、市外からたくさんの観光客が本市を訪れています。

今後は、市民や観光関連事業者が観光に興味を持ち、観光客との交流が生まれるための取り組みを行う必要があります。

### 【主な取り組み】

#### 1 観光振興の意義を周知

市民や観光関連事業者へ本市の観光の現状と観光振興の必要性を伝えるため、市が主催する出前講座などの各種研修会の開催を推進します。

#### 2 市民と観光客が交流できる機会の創出

市民が参加できる観光ボランティア、体験プログラムの仕組みを検討し、市民と観光客が地域の魅力を共感しあえる機会づくりを支援します。

また、語学力を活用した訪日外国人旅行者に対する通訳のボランティアなど、観光を通して市民の能力が発揮できる機会の創出を推進します。

さらに、市内で行われている観光客と交流する機会についての情報を、広報や市ホームページ、SNSを活用して、市民や観光関連事業者へ発信します。

## 基本方針 2：市民と観光関連組織が協議できる場づくり

### 基本方針

市民や観光関連事業者が、地域資源を育て活用する方法を学び、活用方法について協議する機会をつくります。また、市民や観光関連事業者が協議に基づき、地域資源を活用した観光事業を推進します。これらを持続的に行うためにまちづくり型観光の基盤となる組織の創設を支援します。

また、観光関連組織が観光振興のために協議できる機会を作ります。

### 【背景】

市民や観光関連事業者、観光関連組織が一体となり、地域の多様な資源を活かしながら、観光客のニーズにこたえ、客層に応じたプロモーションを行うことで誘客を図る必要があります。

本市には、自然や歴史文化を守るためNPOや愛好会、まちあるきを行う地域団体などの地域の魅力を観光客へ伝えたいという熱意を持った市民や観光関連事業者が活動しています。

今後は、魅力的な観光商品をつくり、地域で協力して情報発信を行うために、市民や観光関連事業者の連携を強化し、観光関連組織で観光に関する共通認識をつくる必要があります。

### 【主な取り組み】

#### 1 観光についての学習会の開催

市民と観光関連事業者が、本市にある地域資源について学び、地域づくりやブランディング、プロモーション、マーケティング、地域資源を利用した商品開発などのまちづくり型観光についての学習会を開催します。

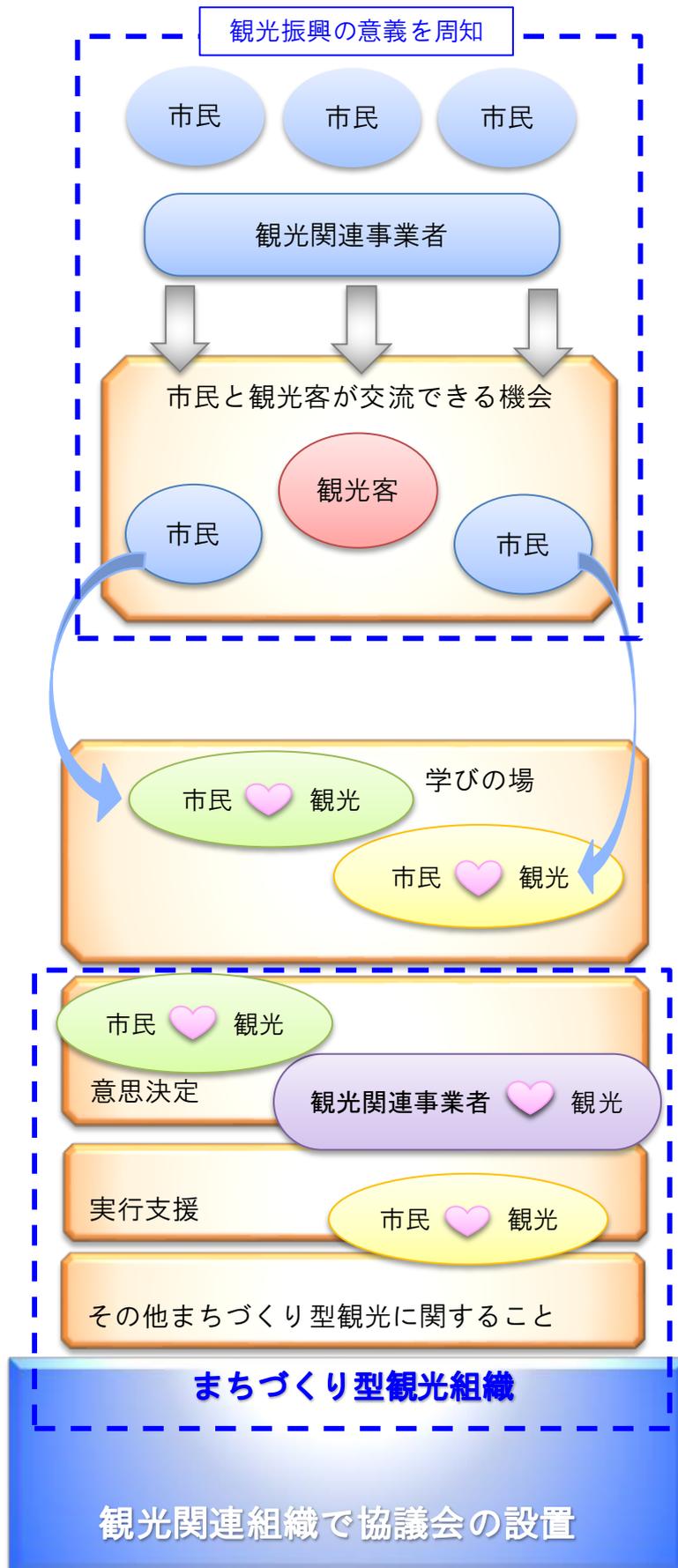
#### 2 まちづくり型観光の基盤となる組織づくり

市民と観光関連事業者が連携してまちづくり型観光の方向性を議論し決定する場づくりとその決定に基づき各主体が持続的に行動できるよう支援する機能を持ったまちづくり型観光の基盤となる組織の創設に向けて支援します。

#### 3 市内組織の連携向上を図る協議会の設置

まちづくり型観光を推進するため、観光協会や商工会議所、商工会、まちづくり型観光組織、観音寺市などの観光関連組織がまちづくり型観光の進むべき方向性を共有し、協力体制を構築するため、協議会の設置を推進します。

市民参加の観光振興イメージ図



## 基本方針 3：観光客のニーズに合わせた商品づくり

### 基本方針

国内における観光客の消費動向と本市を訪れる観光客の属性と消費動向を把握し、観光関連組織の中で共有します。その情報をもとに、地域資源を活用した観光商品の開発を推進します。

### 【背景】

観光振興を行う上で、観光客が本市へ訪れるきっかけづくりと滞在時間を延ばし、観光客満足度を向上させる取り組みが必要です。

本市には、琴弾公園の銭形砂絵や豊稔池堰堤など、多くの観光客が訪れる観光拠点があります。また、イリコやかまぼこなどの食品加工業や豊浜町の綿づくりなどの伝統産業が暮らしの中で引き継がれています。

今後は、観光客のニーズを捉え、観光客に認知されている地域資源を磨き上げるとともに、自然や歴史文化などの多様な地域資源を活用する必要があります。

### 【主な取り組み】

#### 1 観光客のニーズに合わせた滞在型観光商品の開発支援

農林水産業者や地域づくり団体等の多様な市民や観光関連事業者が自然を利用したアクティビティ、暮らしの中で生まれた食文化や手仕事の体験講座、歴史文化を伝えるまち歩きなどの滞在型観光商品の開発を支援します。

また、観光関連組織の各組織が、市内で体験可能な滞在型観光商品について把握し組み合わせることで、観光客の滞在時間の延長を図ります。

#### 2 地域資源の活用に関する各種取組の支援

地元の生産者、加工者、ホテル・旅館、飲食店などの観光関連事業者と連携し、地元素材を活用したメニュー・商品の開発と販路開拓を支援します。

地域産品を活用したメニューづくりのコンテストや販路開拓のための全国的なイベントへの参加支援を通して、消費動向に合わせた商品づくりを支援します。

また、ふるさと学芸館などのような観光に利用できる可能性がある施設の観光利用を検討します。

#### 3 観光客に対する消費動向調査の実施

本市を訪れている観光客に対して、性別や年齢など、どのような観光客がどのように満足し、滞在したかについての調査を行います。また、開発段階の滞在型観光商品の反応を確かめるために、モニターツアーを行うなど商品の開発を支援します。

## 基本方針 4：受入体制の整備

### 基本方針

本市を訪れる観光客が快適に過ごすための受入体制の整備を推進します。

#### 【背景】

##### 1 おもてなし

観光における顧客満足は観光地における人との交流が大きな要因になります。接客・接遇とともに観光客とのコミュニケーションの中で心を読み取り、変化していく感情を理解して共感したうえで、どうすべきか判断する能力が必要です。

##### 2 訪日外国人旅行者

香川県を訪れる外国人旅行者が増加しています。訪日外国人旅行者のニーズを把握し、観光関連組織で情報共有することが必要です。

##### 3 交通網・標識

本市を訪れる観光客は自家用車を利用している人が大半であり、出発地から本市、本市内の移動の際にわかりやすく便利に移動できる体制が必要です。

##### 4 観光拠点・宿泊施設

既存観光施設や古民家を活用して地域の観光拠点や宿泊施設にする取組が各地で見られます。また、多様化する観光客のニーズに対応するために民宿等を開業しやすい環境づくりが必要です。

#### 【主な取り組み】

##### 1 おもてなし研修の開催支援

市民や観光関連事業者が「おもてなし」について学ぶ機会を作るため、研修会の開催を支援します。

##### 2 訪日外国人旅行者の受入体制の検討・整備

訪日外国人旅行者のニーズを把握し、観光関連組織において情報の共有を推進します。また、案内看板やパンフレットの多言語対応を進めます。

##### 3 観光客の移動手段に合わせた受入体制の整備

観光客が快適で安全に域内を回遊することができる二次交通<sup>※8</sup>の在り方を検討します。

観光客が観光地へスムーズに移動できるようインターネットやカーナビゲーション検索との連携、わかりやすい道路標識や案内看板の整備を進めます。

##### 4 時代の潮流に合わせた観光客の快適性を高める方法の検討

観光客の多様なニーズに対応するため、ちょうさ会館などの既存観光施設や古民家などの地域資源を活用した観光拠点や宿泊施設の整備を推進します。また、観光拠点や宿泊施設のWi-Fiの整備を推進します。

## 基本方針 5：広域連携による観光の推進

基本方針
隣接する自治体や県、広域DMO※ <sup>9</sup> との交流を進め、観光客にとって魅力的な地域となるための広域連携を推進します。

### 【背景】

滞在時間を延ばすためには、一つの観光地だけで観光客を満足させることは難しく、観光地間の競争が激化している中で、個々の資源の魅力を積み重ねることで目的地として選択される観光地としての訴求力強化が求められています。

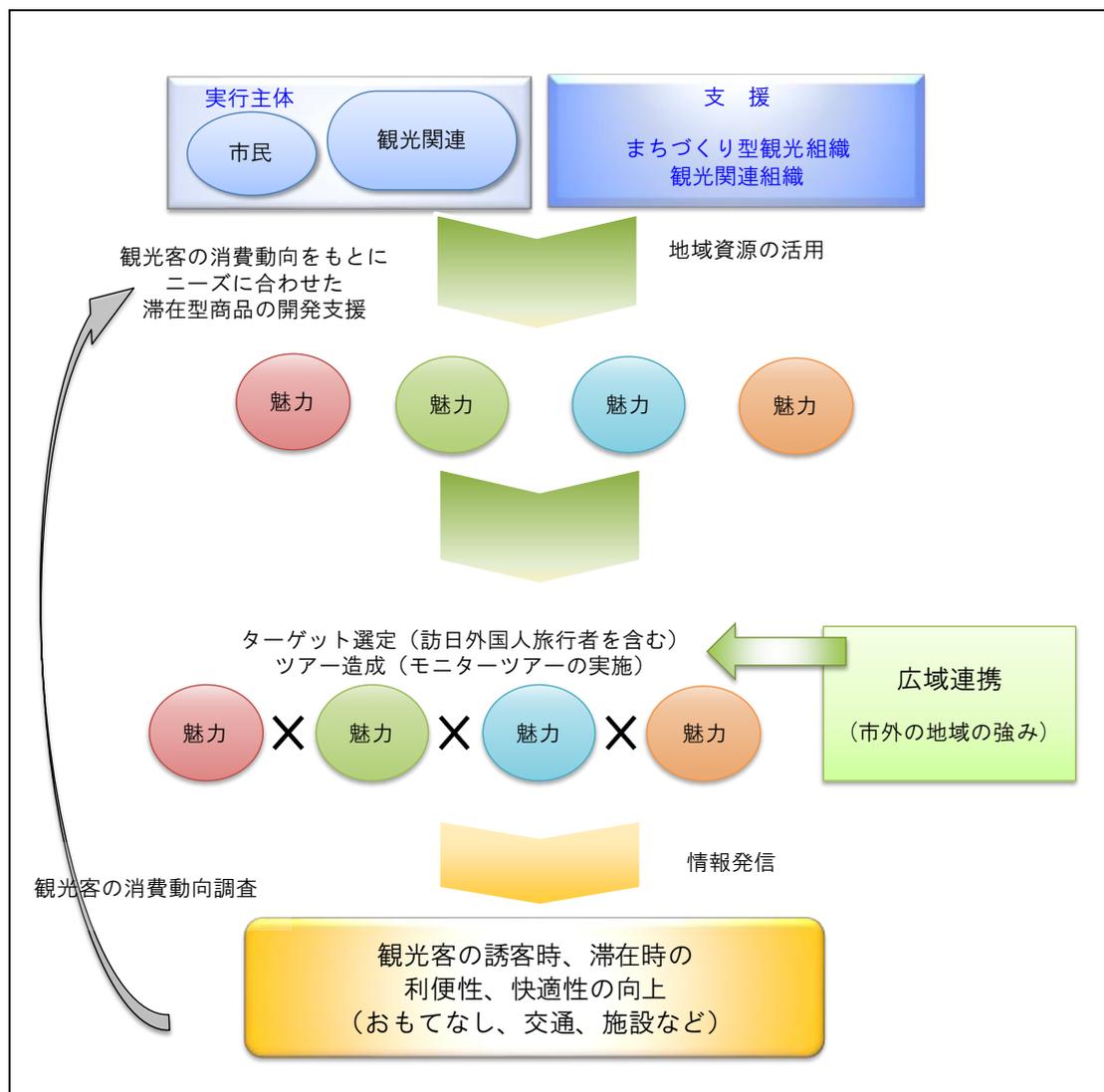
そのため、所有している地域資源や観光拠点が異なる周辺自治体と連携し、広域的に整合性のある観光行政の展開が必要です。

### 【主な取り組み】

#### 1 広域連携の推進

連携する域内の組織が、近隣地域や四国まんなか交流協議会（本市と愛媛県四国中央市と徳島県三好市）、県（香川せとうちアート観光圏）、四国地域（四国ツーリズム創造機構）、瀬戸内地域（せとうちDMO）などの、エリア別の広域連携を推進します。

魅力的な観光地づくりイメージ図



## 基本方針 6：情報の発信

### 基本方針

観光客が本市を訪れたいくなる情報と市民が観光に参加したいくなる情報を、効果的で効率的に発信する体制づくりを推進します。

### 【背景】

近年の傾向として、団体旅行の観光から、個人や少人数での観光が増えてきています。加えてスマートフォンやSNSの普及に伴い、ターゲットとなる個人への情報提供が必要となってきています。

そのため、旅行前に宿泊や体験プログラムの情報収集や予約ができる仕組み、旅行中はIoT<sup>※10</sup>の活用による移動補助、旅行後はフィードバック等の情報の発信・収集の仕組みを作り、集めた情報を整理・分析することが必要です。

また、市民や観光関連組織が観光に関する情報を容易に把握できるための情報発信が必要です。

### 【主な取り組み】

#### 1 観光客が観音寺市を訪れたいくなるような情報発信方法の検討と実行

観光関連組織の中で情報共有し、整理することで、ターゲットに合わせわかりやすく、必要な情報を発信するため、観光関連組織が設置した協議会で、情報の発信方法について検討し、実行します。

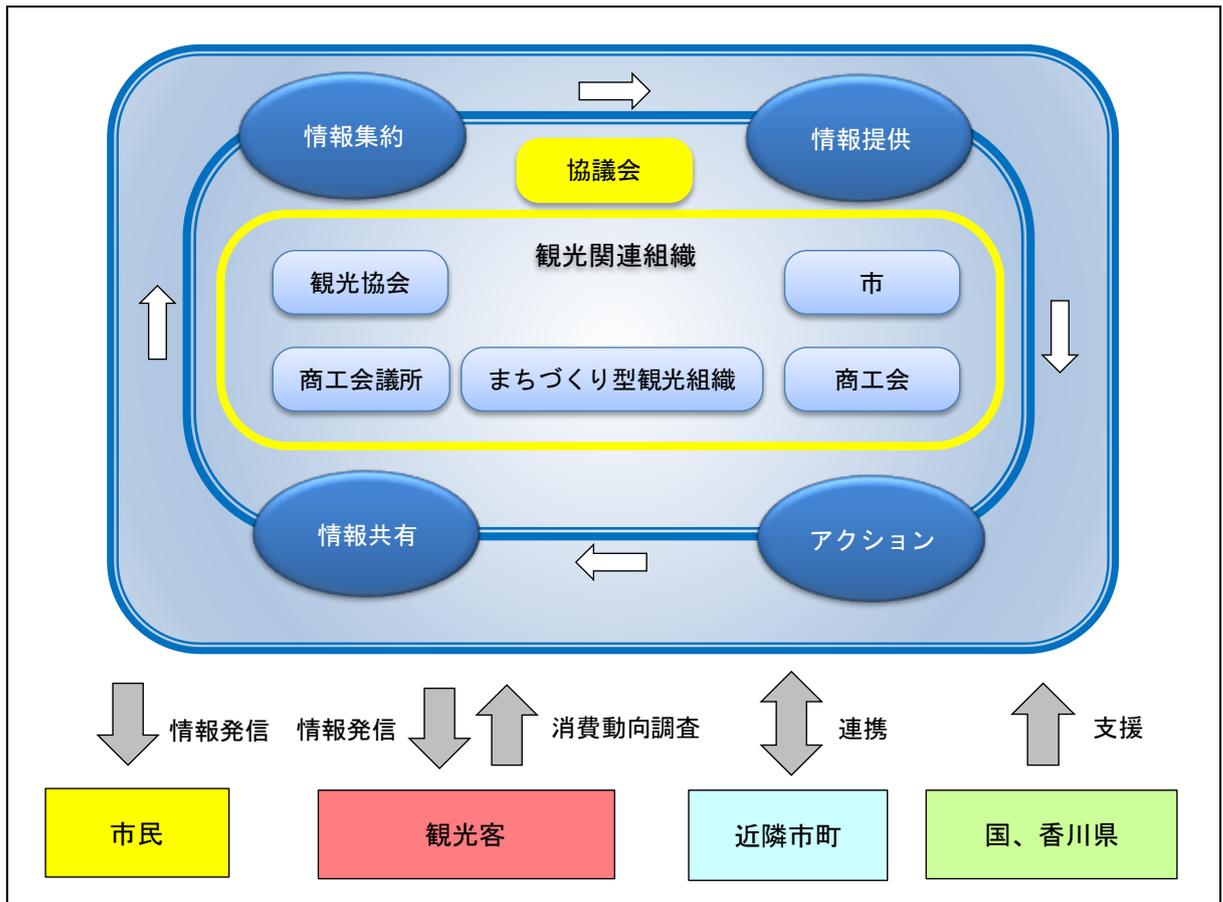
また、市民や観光関連事業者がSNSなどを利用して、本市の観光について情報発信できるような仕組みを作り、ターゲットに向けて情報発信します。

#### 2 市民や観光関連事業者に届く観光の情報発信

市民や観光関連事業者に本市へ訪れる観光客の消費動向や市内で実施されている観光に関する取組、近隣市町村や国、県の補助事業の情報が届く方法を検討し、実行します。

## 2 基本方針の推進体制（組織・連携体制）

基本施策を推進するために、市や観光協会などの観光関連組織が相互に連携し、地域資源の情報や事業内容、消費者動向、国や県などの助成金の内容について共有します。それらの情報を集約し、情報を必要としている主体へ発信することで、魅力的な観光地づくりと市民参加の観光振興の実現を目指します。



# 資料編 観光関係資料・データ

## 1 観音寺市の観光に関する調査

### (1) 観音寺市の地域資源一覧

作業部会において取りまとめた本市の地域資源は、次のとおりです。

分野	名称	備考	分野	名称	備考
歴史文化	皇太子神社	麴の神様、お門弓、	特産品・土産品	えびせん	
	粟井神社	あじさい祭り・神楽の画、神楽殿		いりこ加工品	
	琴引八幡宮	義経が奉納した鳥居		かまぼこ・竹輪	
	高屋神社			観音寺饅頭	
	加麻良神社	流岡までが海だったことの証明		川鶴酒造	
	萩原寺	萩まつり		おいり	
	雲辺寺			梨ソフトクリーム	
	神恵院・観音寺	一霊場二札所、釈迦涅槃像		梨加工品	缶詰、ジュース、ジャム、焼肉タレ、漬物
	一夜庵			ソフトクリーム	山田冷菓
	銭型砂絵			果樹アイス	フジカワ農園のアイス
	ちょうさ祭り		豊稔池堰堤	ゆるぬき、重要文化財	
	専念寺	小林一茶が逗留	琴引公園	桜百選・松林・根上がり松	
	灯籠	琴弾公園の常夜燈	スノーパーク	スキー場、ローブウェイ	
	雅之里	能の舞台	琴弾回廊		
	延喜式の神社が多い		ちょうさ会館		
	伊吹島の神楽		世界のコイン館		
	白山・住吉・大師堂	祭り	小さなバラ園		
	中国銀行跡地		宝くじ売り場		
	九十九山・伊吹、母神山	ミニ四国八十八ヶ所	三架橋		
	豊浜町の街並	商家、日本一短いアーケード	道の駅とよはま		
	大野原古墳群		五郷の里	水車	
	生徳旅館	昭和天皇が宿泊された場所	煉瓦倉庫		
	観一裏の長屋街	古い路地、車が通らない	旧五郷小の校舎		
	山口の井戸	琴弾山ふもと	新市民会館		
	薦田家	晩翠椿	室本アリーナ	県外、国外からの利用者を受け入れ可能	
	宇喜多屋敷	人・物・情報	マンホール		
	蓮光院	室本の街	観音寺港		
	観音寺町と粟井町の道路元標		大平総理記念館		
	遍路道や石の道標		門脇美術館		
	路地の中にある鳥居		柳町にぎわい広場	和泉正敏さんの彫刻	
	西光寺の門	緯の機械掃射で飛ばされたシャチホコ	一ノ谷総合コミュニティセンター	和泉正敏さんの彫刻	
	作田の飛行場跡		鑑望苑	和泉正敏さんの彫刻	
	トーチカ		体験等	かんぱく	
	ミニ神社・お宮			よるしるべ	
	十王堂			地引き綱	
	有明のレンガ工場跡地			釣り	
	萩原寺地蔵院			スキー	
	高尾観音堂			まちあるき	
	北向観音堂			農業体験	
	田野々法泉寺	もみじがきれい		イルミネーション	
五郷有木	平家落人の地域、あみだ堂	マテ貝取り			
五郷観音堂		うどんづくり			
公衆浴場		大野原小学校の学校林	ひのき、杉小学生の自然体験に使える		
伊能忠敬が泊まった家の跡		地蔵盆			
京極家ゆかりの心光院		財田川	たて綱		
自然・景観	伊吹島	坂道、港、アザミがう	大太鼓の体験		
	有明浜	夕陽100選	ウエイクボート		
	一宮海岸		豊浜のわた		
	箕浦		柳町のピザ釜		
	農村景観		水引		
	五郷の竹林	豊富な竹活用	焼印	黒川さん	
	円上島、股島	菊花石、無人島体験	にくてん		
稻積山の絶景		食料	うどん	モーニング	
食材	伊吹いりこ			居酒屋	地産地消
	らりるれレタス			カフェ	
	ほうなんナシ		幸水・豊水・二十世紀・あきづき・新高	いりこ料理	
	柑橘類		レモン、みかん、	こもけ団子	
	タマネギ			豊浜の白みそ	
	ニンニク			甘酒と天ぷら	秋祭りの風習
	ネギ		うどん薬味用	いのしし料理	
	小麦	うどん用	あん餅雑煮		
	アメリカ芋				

## (2) 観音寺市の魅力アンケート（市内小中学生用）

次の各設問について、市内の小中学生にアンケート調査を実施しました。

観音寺市の魅力アンケート		学校名	性別			男	女				
観音寺市	観音寺	銭形砂絵 [ぜにがたすなえ/かんえいつうほう]	よく知っている	知っている	あまり知らない	まったく知らない	大変興味がある	興味がある	興味がない	あまり興味がない	まったく興味がない
		琴弾公園 [ことひきこうえん]									
観光地や景色	大野原	一夜庵 [いちやあん]									
		観音寺・神恵院（四国八十八ヶ所） [かんのんじ・じんねいん]									
		川鶴酒造の蔵 [かわつるしゅぞうのくら]									
		有明浜 [ありあけはま]									
		波切不動尊（伊吹島） [なみきりふどうそん]									
		石門（伊吹島） [せきもん（いぶきじま）]									
		道の駅ことひき									
		稲積山（高屋神社） [いなづみやま（たかやじんじゃ）]									
		雲辺寺 [うんべんじ]									
		スノーパーク雲辺寺									
豊浜	豊浜	豊稔池堰堤 [ほうねんいけ えんてい]									
		生き木地蔵と大楠 [いきぎじぞうそんとおおくす]									
		法泉寺 [ほうせんじ]									
		萩原寺 [はぎわらじ]									
		大野原古墳群（椋塚、平塚、角塚） [わんかしづか、ひらづか、かくづか]									
		一の宮公園 [いちのみや こうえん]									
		ちょうさ会館 [ちょうさ かいかん]									
		豊浜郷土資料館 [とよはまきょうどしりょうかん]									
		姥ヶ懐池 [うばがふところいけ]									
		高尾山 [たかおやま]									
道の駅とよはま [みちのえき とよはま]											

観音寺市の魅力アンケート		学校名	性別			男	女				
イベント・文化	イベント・文化	銭形まつり [ぜにがたまつり]	よく知っている	知っている	あまり知らない	まったく知らない	大変興味がある	興味がある	興味がない	あまり興味がない	まったく興味がない
		ちょうさ祭り									
食	食	粟井神社のあじさい祭り [あわいじんじやのあじさいまつり]									
		伊吹島港まつり [いぶきじまみなとまつり]									
		伊吹島のいりこ漁 [いりこりょう]									
		和田、田野々の雨乞い踊り [わた、たのののあまごいおどり]									
		豊浜町のわた作り [とよはまちょうのわたづくり]									
		瀬戸内国際芸術祭 [せとうちこくさいげいじゆつさい]									
		結城友奈は勇者である [ゆうきゆうなはゆうしゃである]									
		らりるれレタス									
		セルリー									
		豊浜町の梨 [とよはまちょうのなし]									
		銘菓かんおんじ									
		梅が枝もち [うめがえもち]									
		おいり									
		えびせんべい									
		しょうゆ豆 [しょうゆまめ]									
観音寺市のかまぼこ屋											
地元の魚を使った料理											
いりこだしのうどん											
うどん以外のいりこ料理											
骨付き鳥 [ほねつきどり]											

問2 「おもてなし」について

次の質問について、あてはまるものに○を書いてください。  
 観音寺

	よく 知っている	知 っている	あ まり 知 らない	ま った く 知 らない	大 変 あ る	あ る	あ ま り な い	ま っ た く な い
観光客が観音寺に来ていることを知っていますか。								
観音寺に来た観光客に「おもてなし」をしたいと思いませんか。								

問3 その他（自由にご書いてください）

- 観光に来た友だちにおすすめしたい観音寺市の「景色」や「イベント」、「食べ物」などがあれば、下の四角の中にご書いてください。
- 観光に来た友だちに観音寺市をアピールするためにあればいいなと思うものがあれば、下の四角の中にご書いてください。



観音寺市といえば

1 銭形砂絵



13 豊稔池堰堤（国重要文化財、壮大なダム）



32 ちょうさ祭（金糸、絹糸の装飾され豪華絢爛な太鼓台）



レジャー

6 有明海岸（海水浴）



18 一の宮公園（恋人の聖地、フラットスキム）



12 スノーパーク雲辺寺（人工雪スキー場）



歴史・文化

3 一夜庵（山崎宗鑑、日本最古の俳跡）



5 川鶴酒造の蔵（明治24年創業、市登録有形文化財）



17 大野原古墳群（6～7世紀、国指定史跡、大野原八幡神社付近に古墳が集中）



（椀塚）  
（平塚）  
（角塚）



伝統芸能・イベント

36 和田、田野々の雨こい踊り



37 綿づくり（綿から糸、糸から布を手作業で行う）



31 銭形まつり



39 結城友奈は勇者である（観音寺市を舞台としたアニメ）



神社・仏閣

4 観音寺（四国八十八箇所）・神恵院（四国八十八箇所）  
（四国霊場で唯一の一寺二霊場）



15 法泉寺（紅葉が美しい）



16 萩原寺（弘法大師によって開基、国指定重要文化財所有）



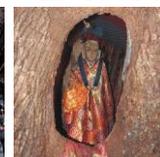
33 粟井神社のあじさい祭り



11 雲辺寺（四国八十八箇所）



14 生き木地蔵（成長している楠に直接地蔵が彫られている）



伊吹島

35 伊吹いりこ



7 波切不動尊



8 石門（せきもん）



34 伊吹島まつり



38 瀬戸内国際芸術祭



38 瀬戸内国際芸術祭



**絶景ポイント・インスタ映え**

6 有明浜 (日本の渚百選) 18 一の宮公園  
(瀬戸内海に沈む夕日がとてもきれい)



10 稲積山  
(車で行ける絶景ポイント)



11 雲辺寺  
(ロープウェイ)



2 琴弾公園  
(日本の桜100選)



**道の駅・観光施設**

9 道の駅ことひき  
(世界のコイン館、大平正芳記念館)



23 道の駅とよはま  
(おいりソフト、夕日がきれい)



19 ちょうさ会館  
(一年中ちょうさが展示している、大型スクリーンでまつりの  
雰囲気を感じ)



20 豊浜郷土資料館  
(豊浜と綿の歩みを展示したコ  
ットンミュージアム)



**グルメ・名物**

61 いりこだしのうどん  
(あじ、うまみが強い)



60 地魚料理  
(多品目がとれる瀬戸内の鮮魚)



59 かまぼこ  
(瀬戸内の魚をすり身で)



62 伊吹いりこ(料理)  
(いりこ飯、イリコの素揚げ)



58 しょうゆ豆  
(そら豆を甘辛く煮るさぬきの郷土料理)



63 骨付き鳥  
(スパイシーな骨付き鳥)

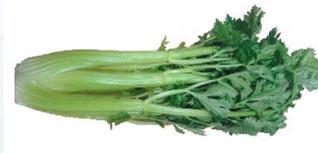


**特産品**

51 らりるれレタス



52 セルリー



53 豊浜町の梨



**お土産**

54 銘菓かんおんじ  
(リピータが多い名品)



57 えびせんべい  
(新鮮な地えびを焼きゴテでせんべいに)



56 おいり  
(マツコ・デラックス絶賛カラフルな餅菓子)



55 梅が枝もち  
(ニッキが効いた餅をめくって食べる)



## 2 観光を取巻く政策と統計

### (1) 観光を取巻く政策について

#### ◆国の政策

観光立国推進基本法（平成 18 年法律第 117 号）の規定に基づき、観光立国の実現に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、平成 29 年度からの新たな「観光立国推進基本計画」が閣議決定されました。

#### (基本方針)

観光基本立国推進基本計画の基本的な方針として下記の内容を掲げています。

##### (1) 国民経済の発展

観光を我が国の基幹産業に成長させ、日本経済を牽引するとともに、地域に活力を与える。

##### (2) 国際相互理解の増進

観光を通じて国際感覚に優れた人材を育み、外国の人々の我が国への理解を深める。

##### (3) 国民生活の安定向上

全ての旅行者が「旅の喜び」を実感できるような環境を整え、観光により明日への活力を生み出す。

##### (4) 災害、事故等のリスクへの備え

国内外の旅行者が安全・安心に観光を楽しめる環境を作り上げる。東北の復興を加速化する。

この計画は、平成 32 年までに、以下の目標を掲げ、これらの達成のために政府全体として講ずべき施策等について定めています。

	新たな基本計画の目標 目標年平成 32 年	旧基本計画 平成 27 年実績
1. 国内旅行消費額	21 兆円	20.4 兆円
2. 訪日外国人旅行者数	4,000 万人	1,974 万人
3. 訪日外国人消費額	8 兆円	3.5 兆円
4. 訪日外国人リピーター数	2,400 万人	1,159 万人
5. 訪日外国人旅行者の 地方部における延べ宿泊数	7,000 万人泊	2,514 万人泊
6. アジア主要国における 国際会議の開催件数に占める割合	3 割以上 アジア最大の開催国	26.1%
7. 日本人の海外旅行者数	2,000 万人	1,621 万人

出典：観光庁（新たな基本計画における観光立国の推進に関する目標）

#### (観光立国推進基本計画の施策)

(1) 国際競争力の高い魅力ある観光地域の形成

(2) 観光産業の国際競争力の強化及び観光の振興に寄与する人材の育成

(3) 国際観光の振興

(4) 観光旅行の促進のための環境の整備

## ◆香川県の政策

香川県では、平成 27 年度に『せとうち田園都市香川創造プラン』の計画期間が終了することから、平成 28 年度からの新たな香川づくりの指針として、平成 27 年 12 月に『新・せとうち田園都市創造計画』（計画期間：平成 28 年度～平成 32 年度）を策定しています。

『新・せとうち田園都市創造計画』では、重点施策の 1 つに「豊かな地域資源を生かして交流人口の拡大を推進する」があります。

### 重点施策：豊かな地域資源を生かして交流人口の拡大を推進する

瀬戸内海やアート、自然、歴史、文化など本県の豊かな資源の魅力を国内外からの観光客に楽しんでいただき、旅行先として「選ばれる香川」となるとともに、MICE<sup>※11</sup>誘致などに取り組み、交流人口の拡大を推進します。

#### 施策の推進に当たっての現状と課題

##### （現状）

- ・ 本県の県外観光客数は、瀬戸大橋開通ブームの昭和 63 年の約 1,035 万人をピークに減少傾向にありましたが、近年においては、増加傾向にあり、平成 25 年には平成になって以降で初めて 900 万人を超えるなど交流人口の動きが活発になっています。
- ・ しかし、人口減少社会の到来を迎え、全国各地において地域活性化を念頭に、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を見据えた、観光交流人口の増大に取り組むなど観光振興における地域間競争がますます激化しています。

##### （課題）

- ・ 観光交流人口の増加による地域経済の活性化を効率的・効果的に図るため、国内外からの観光客の誘致推進に当たっては、滞在時間の拡大、観光消費の増大、観光客の満足度（再訪意欲）の向上を図る取組みを推進していくことが重要です。
- ・ 旅行先や購入先として「選ばれる香川」となるよう、本県特有の資源を生かし、ターゲットを見据えた戦略的な誘客施策等に取り組み、交流人口の増大を図る必要があります。

- 1 香川せとうちアートのブランド化の推進
- 2 観光客受入態勢の整備
- 3 戦略的な観光プロモーション
- 4 外国人誘客対策の充実・強化
- 5 MICE 誘致の推進
- 6 クルーズ客船誘致の推進

#### 県民等に期待すること

- 〔県民〕
- 香川の魅力の認識共有と積極的な情報発信
  - 観光客に対するおもてなしの心の醸成
  - 観光案内・通訳などのボランティア活動やイベント、講演会、シンポジウムなどの各種行事等への積極的な参加
- 〔地域団体等〕
- まち歩きなどまちづくり型観光の取組み
- 〔企業〕
- 観光客の受入態勢の整備
  - MICE の積極的な誘致
  - コンベンション施設の受入態勢の充実及び質の高いサービスの提供

\* 『新・せとうち田園都市創造計画』から抜粋

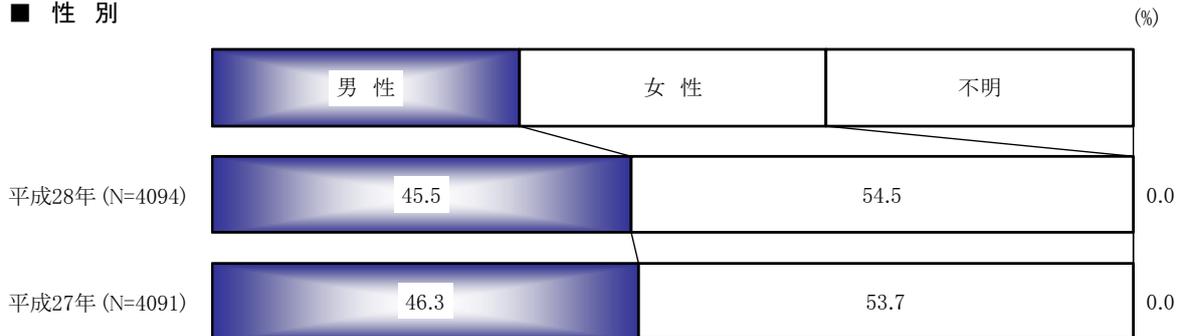
## (2) 平成28年度香川県観光地点パラメータ調査

### ① 観光客の性別・年齢

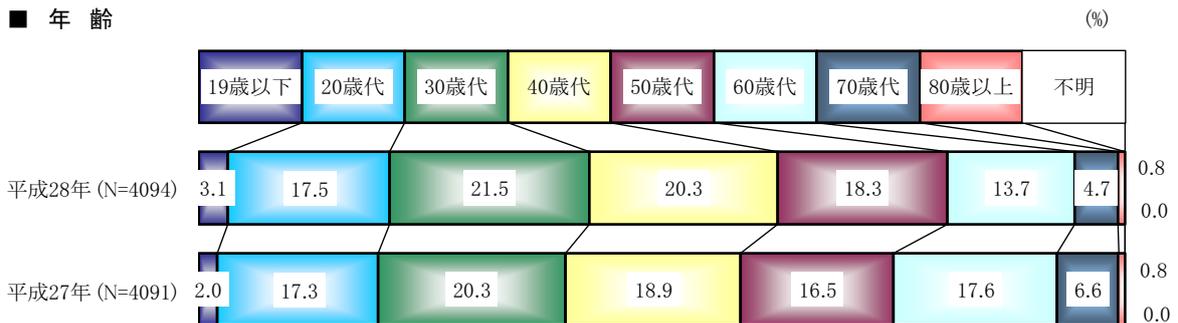
香川県観光客の属性をみると、性別は「男性」(45.5%)、「女性」(54.5%)と、やや女性が多く、年齢構成は「30歳代」(21.5%)、「40歳代」(20.3%)、「50歳代」(18.3%)の順に多いです。

性・年齢別でみると、男性は「50歳代」(9.5%)、「30歳代」(9.0%)がやや多い。女性は20～40歳代が1割台と多いです。

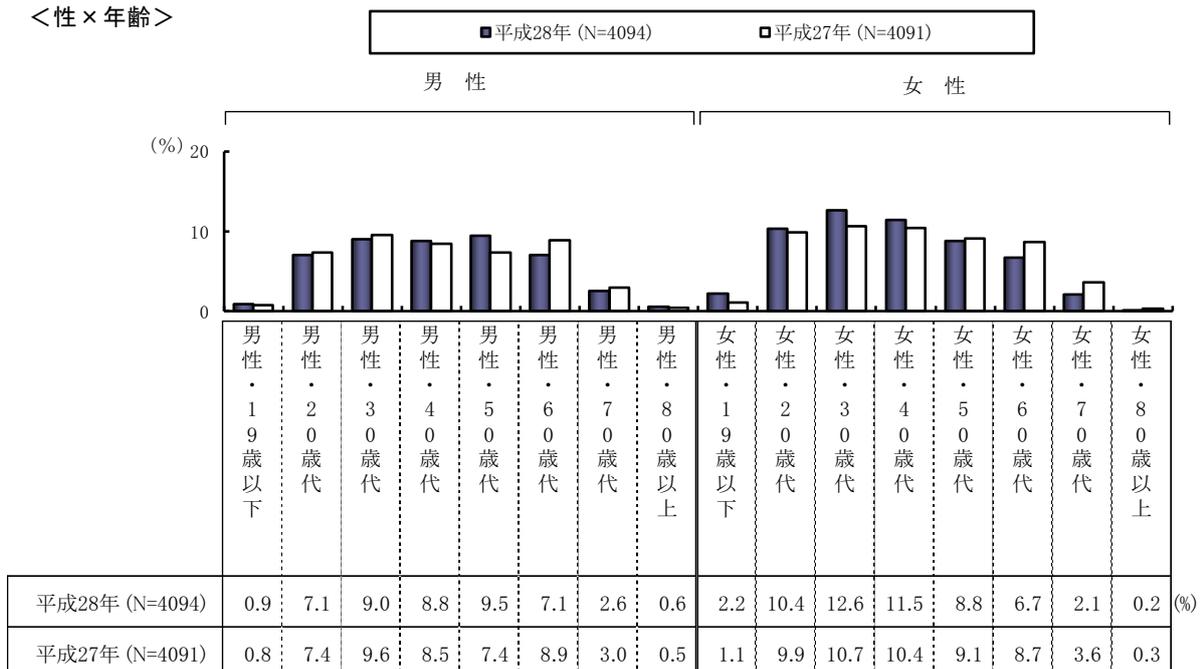
#### ■ 性別



#### ■ 年齢



#### <性×年齢>



② 観光客の居住地

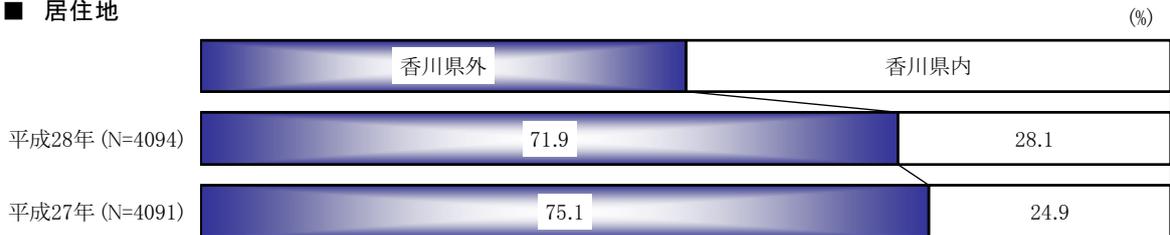
観光客の居住地は「香川県外」(71.9%)と大半を占めています。

香川県外の内訳をみると、「近畿」(29.2%)が最も多く3割弱、次いで「四国(香川除く)」(23.4%)、「山陽」(22.9%)となります。

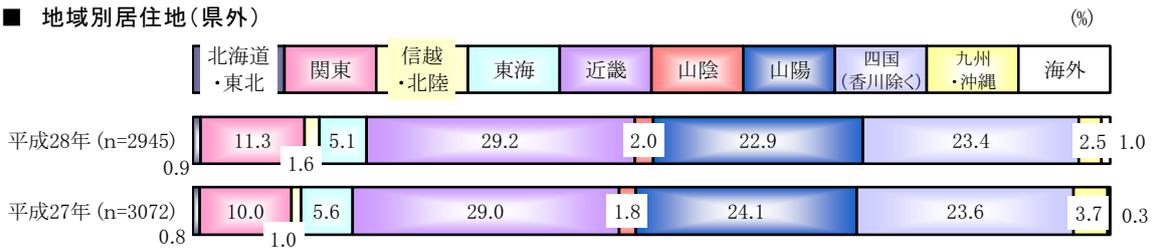
居住地の詳細をみると、「香川県」(28.1%)以外は、「岡山県」(10.5%)、「大阪府」(9.0%)がやや高いです。

前回調査(平成27年)と比べると、「香川県内」が増加した。また、地域では「山陽」が減少しました。

■ 居住地



■ 地域別居住地(県外)



■ 地方別集計

(単位：%)

順位	地域	平成28年	平成27年
1	四国	44.9	42.6
2	近畿	21.0	21.8
3	山陽	16.5	18.1
4	関東	8.1	7.5
5	東海	3.7	4.2
6	九州・沖縄	1.8	2.8
7	山陰	1.4	1.3
8	信越・北陸	1.2	0.8
9	北海道・東北	0.7	0.6
10	海外	0.7	0.2

■ 都道府県別集計

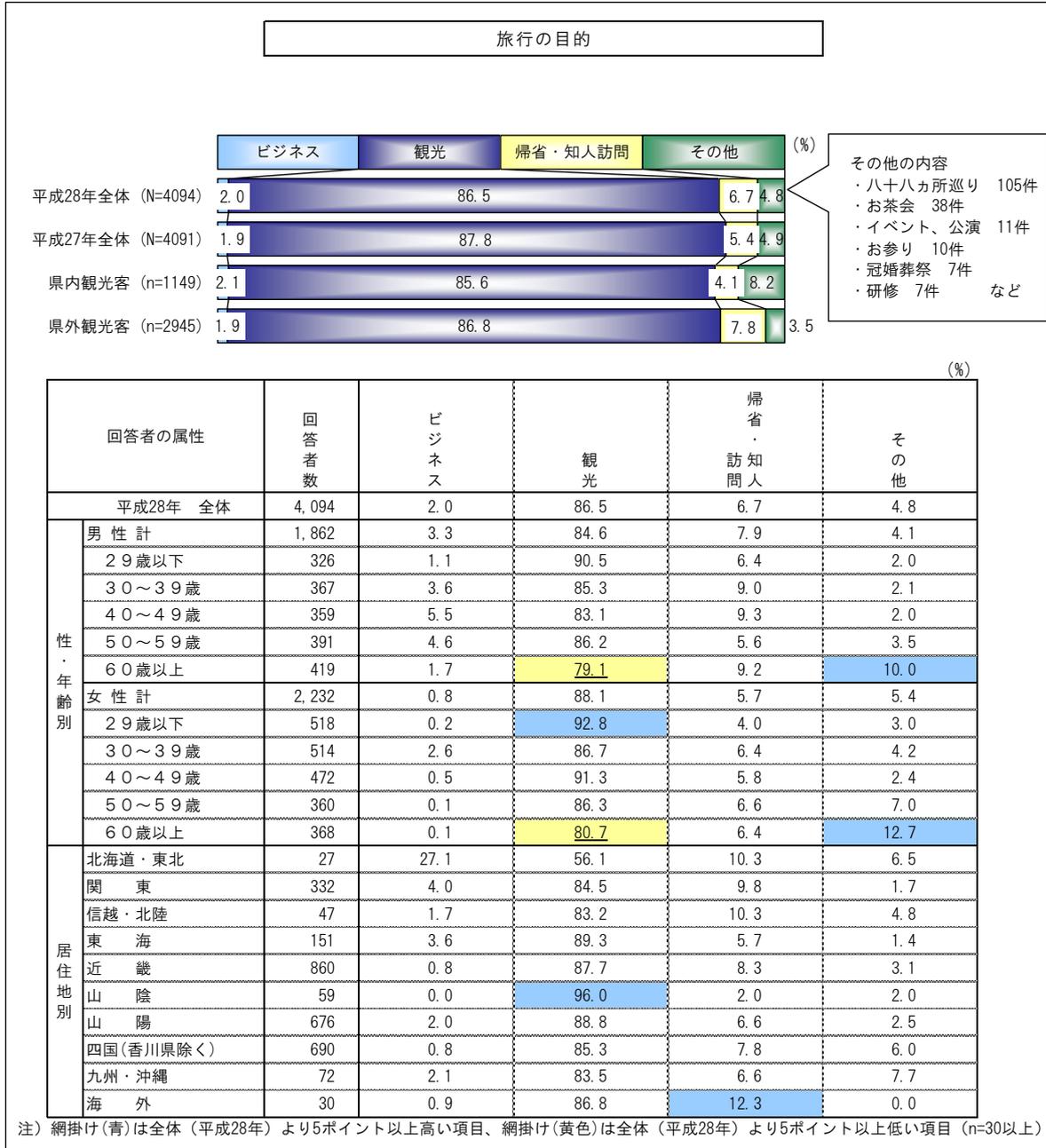
(単位：%)

順位	地域	平成28年	平成27年
1	香川県	28.1	24.9
2	岡山県	10.5	10.1
3	大阪府	9.0	8.2
4	兵庫県	7.2	8.2
5	徳島県	6.9	5.5
6	愛媛県	6.7	8.2
7	広島県	5.2	7.1
8	東京都	3.8	3.5
9	高知県	3.2	4.1
10	京都府	2.4	3.0

③ 旅行の目的

旅行目的は「観光」が86.5%を占め、他は1割未満にとどまる。県内観光客では「その他」がやや高いです。

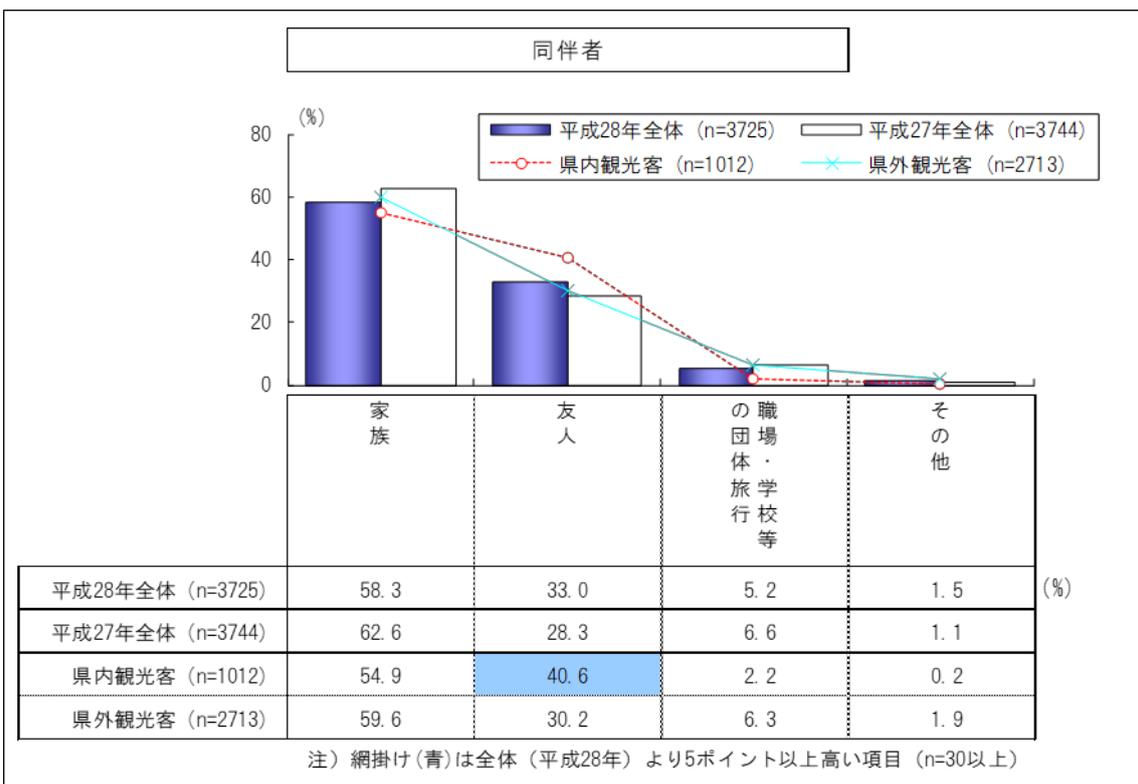
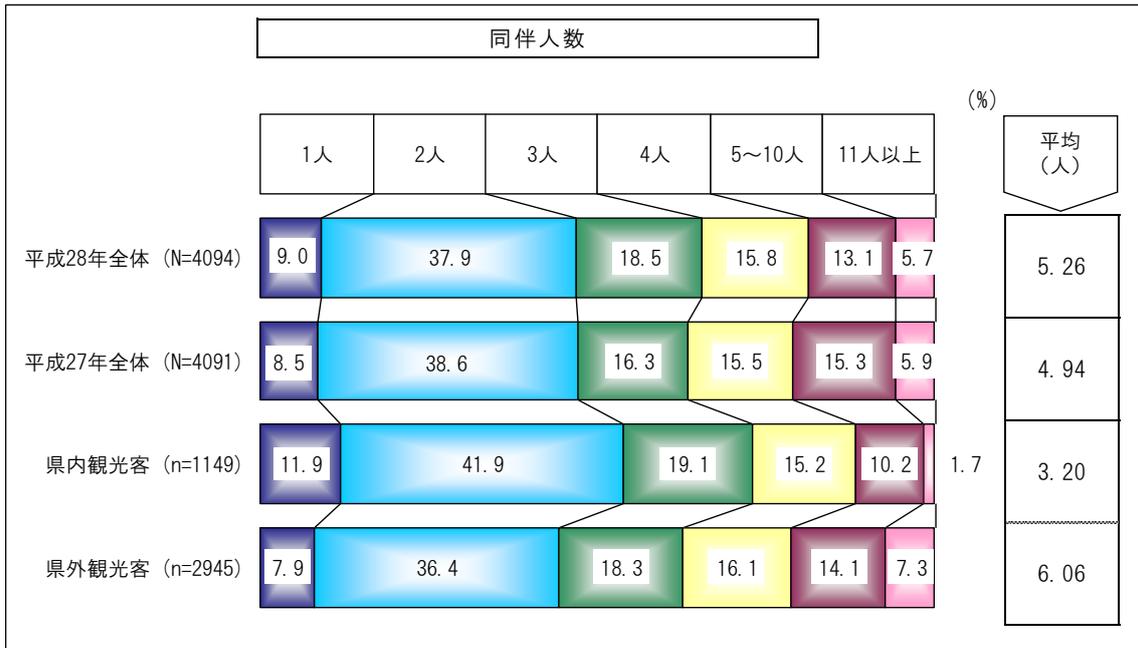
居住地別では、海外からの観光客は「帰省・知人訪問」がやや高いです。



④ 旅行の同伴人数

旅行の同伴人数は、「2人」(37.9%)が最も高く、次いで「3人」(18.5%)、「4人」(15.8%)、「5～10人」(13.1%)が1割台となり、平均は5.26人です。県内観光客は平均人数が3.20人とやや少なく、県外観光客の6.06人との差が大きいです。

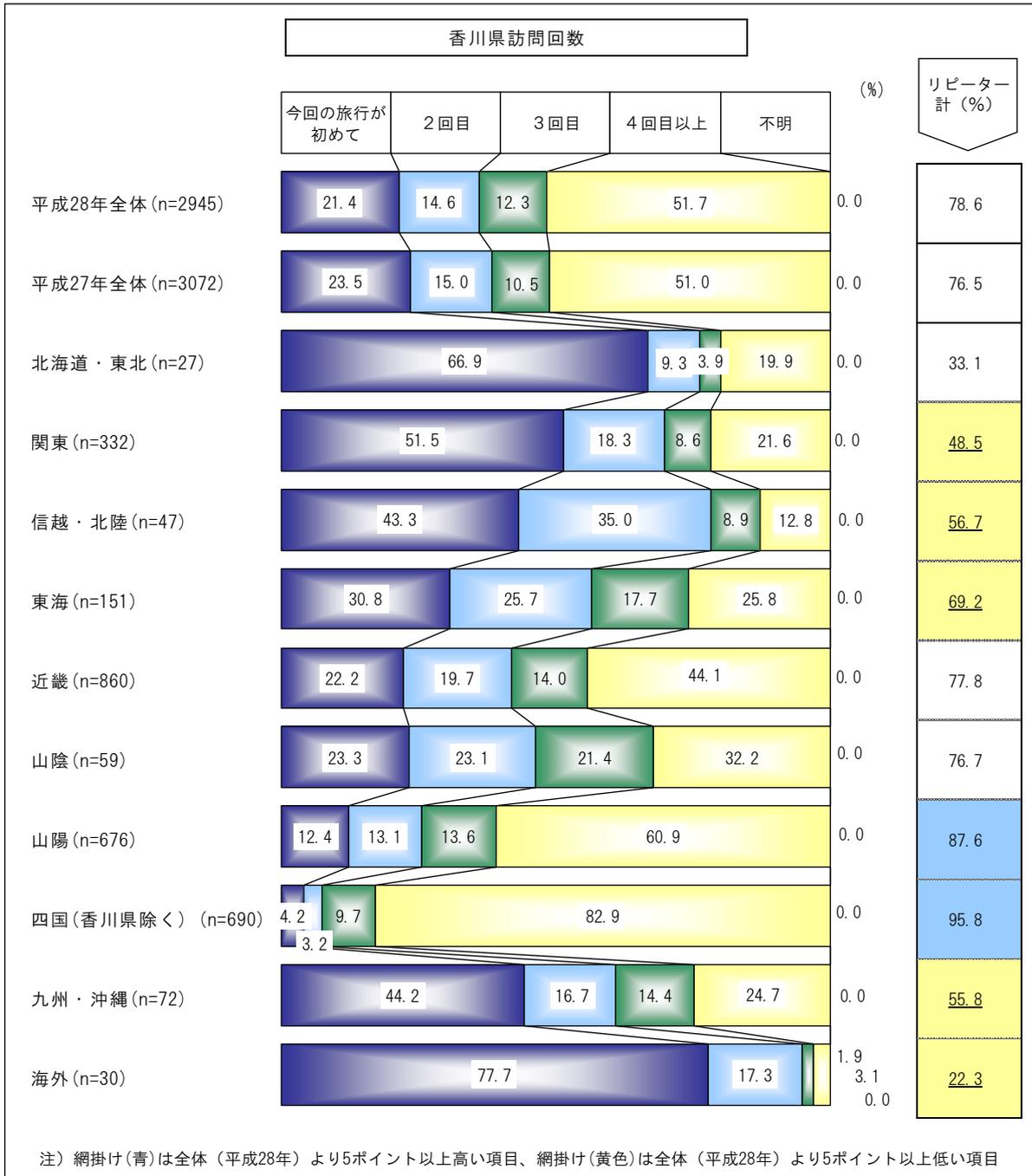
同伴人数が2人以上の観光客の同伴者は、「家族」(58.3%)が6割弱と最も多く、次いで「友人」(33.0%)となり、他は1割未満にとどまります。



⑤ 香川県訪問回数

県外観光客の回答者自身の香川県への訪問回数は、「4回目以上」が51.7%と最も高く、リピータの割合は78.6%と高いです。また「今回の旅行が初めて」(21.4%)も2割強を占めています。前回(平成27年)と比較すると、「今回の旅行が初めて」はやや減少し、リピータの割合は増加しました。

居住地別でみると、四国(香川県除く)、山陽でリピータの割合が8~9割と高いですが、九州・沖縄、信越・北陸で5割台、関東で4割台、海外では2割強と低いです。

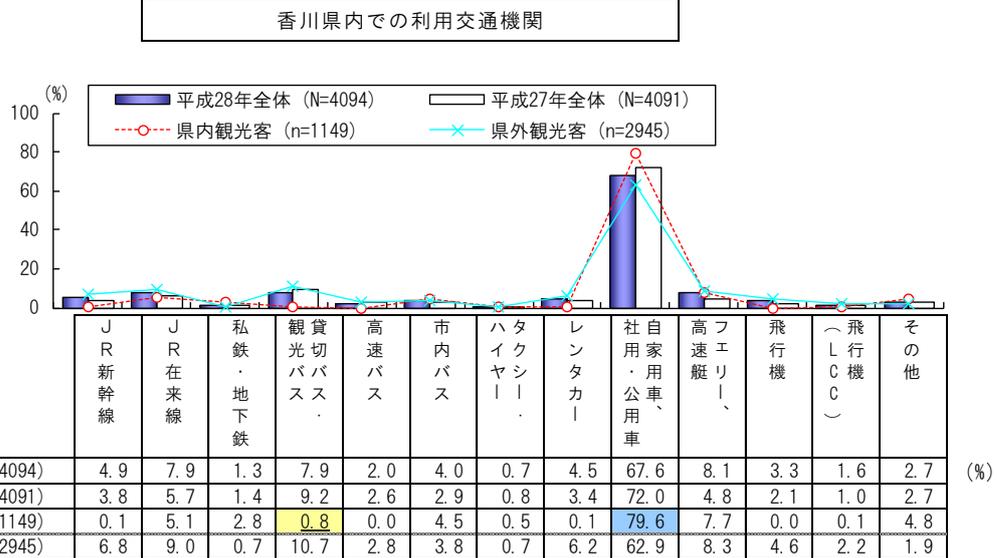


⑥ 香川県内での利用交通機関

香川県内での利用交通機関は、「自家用車、社用・公用車」が67.6%で最も高く、他は1割未満にとどまります。「自家用車、社用・公用車」は県内観光客で高く、県外観光客は「貸切バス・観光バス」がやや高いです。

年齢別では、「自家用車、社用・公用車」は30～40歳代、「貸切バス・観光バス」は60歳以上、「JR在来線」は29歳以下で高いです。

居住地別では、四国（香川県除く）、山陽で「自家用車、社用・公用車」が7～8割で高い。また、九州・沖縄で「JR新幹線」「JR在来線」が高いです。関東、海外は「飛行機」「飛行機（LCC）」が高いですが、海外は「飛行機（LCC）」の割合の方が高いです。関東、九州・沖縄は利用交通機関が多岐にわたっています。



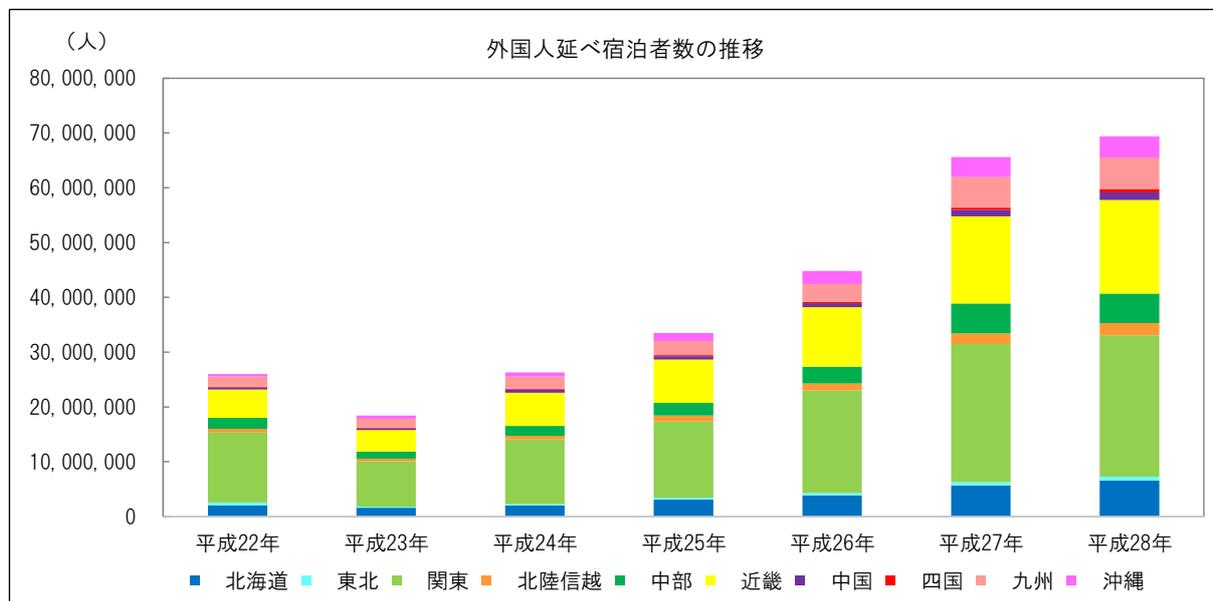
		回答者数	JR新幹線	JR在来線	私鉄・地下鉄	観光切バス・貸切バス	高速バス	市内バス	タクシー・ハイヤー	レンタカー	社用・公用車、自家用車	フェリー、高速艇	飛行機	(LCC)飛行機	その他
平成28年 全体		4094	4.9	7.9	1.3	7.9	2.0	4.0	0.7	4.5	67.6	8.1	3.3	1.6	2.7
性別	男性計	1862	5.1	6.4	1.3	10.0	1.5	3.4	0.3	5.2	66.9	6.7	2.4	1.6	3.4
	女性計	2232	4.8	9.2	1.3	6.2	2.4	4.5	1.0	4.0	68.2	9.3	4.1	1.7	2.2
年齢別	29歳以下	844	4.8	16.3	2.0	3.2	4.8	6.0	0.2	5.9	59.2	10.6	3.6	2.7	3.8
	30～39歳	882	2.7	6.8	0.5	4.4	1.2	5.0	0.4	4.0	75.1	8.3	4.1	1.9	2.7
	40～49歳	830	2.9	3.0	1.3	8.0	1.2	2.4	0.7	3.4	76.6	6.4	3.1	0.5	2.4
	50～59歳	751	7.3	7.0	2.1	8.4	1.8	2.7	1.1	4.5	64.7	8.3	3.2	1.8	2.9
	60歳以上	787	7.4	6.2	0.7	16.2	1.1	3.6	1.1	4.6	61.5	6.8	2.6	1.2	1.8
居住地別	北海道・東北	27	7.3	5.6	0.0	7.4	3.0	2.1	2.1	47.0	13.5	4.2	51.8	9.4	1.0
	関東	332	13.9	15.4	1.7	7.9	3.8	10.4	2.8	28.0	18.5	10.5	32.6	14.6	2.0
	信越・北陸	47	2.9	16.9	1.7	6.4	0.6	0.6	1.1	15.0	62.6	6.9	3.2	0.0	1.2
	東海	151	28.7	7.7	0.6	14.4	1.1	5.2	1.2	14.1	41.7	5.4	2.4	0.2	1.7
	近畿	860	8.6	6.6	0.4	11.1	5.6	3.1	0.3	3.1	66.0	12.3	0.1	0.0	3.4
	山陰	59	1.0	14.4	0.0	48.3	0.0	0.9	1.6	1.0	34.8	1.8	0.0	0.0	0.0
	山陽	676	1.1	11.8	1.2	7.8	1.0	3.6	0.4	1.0	72.6	7.5	0.0	0.5	0.9
	四国（香川県除く）	690	0.0	2.9	0.3	9.3	1.5	0.9	0.1	0.5	85.7	2.7	0.0	0.0	1.0
九州・沖縄	72	36.0	29.6	0.0	16.6	1.3	12.9	1.6	5.4	34.3	15.4	2.5	0.0	5.5	
海外	30	0.9	17.3	3.1	25.5	1.8	3.7	6.9	26.3	0.0	29.2	21.7	34.6	4.0	

注) 網掛け(青)は全体(平成28年)より5ポイント以上高い項目、網掛け(黄色)は全体(平成28年)より5ポイント以上低い項目

### (3) 宿泊旅行統計調査（観光庁）

#### ① 地区別 外国人延べ宿泊者数の推移（全国）

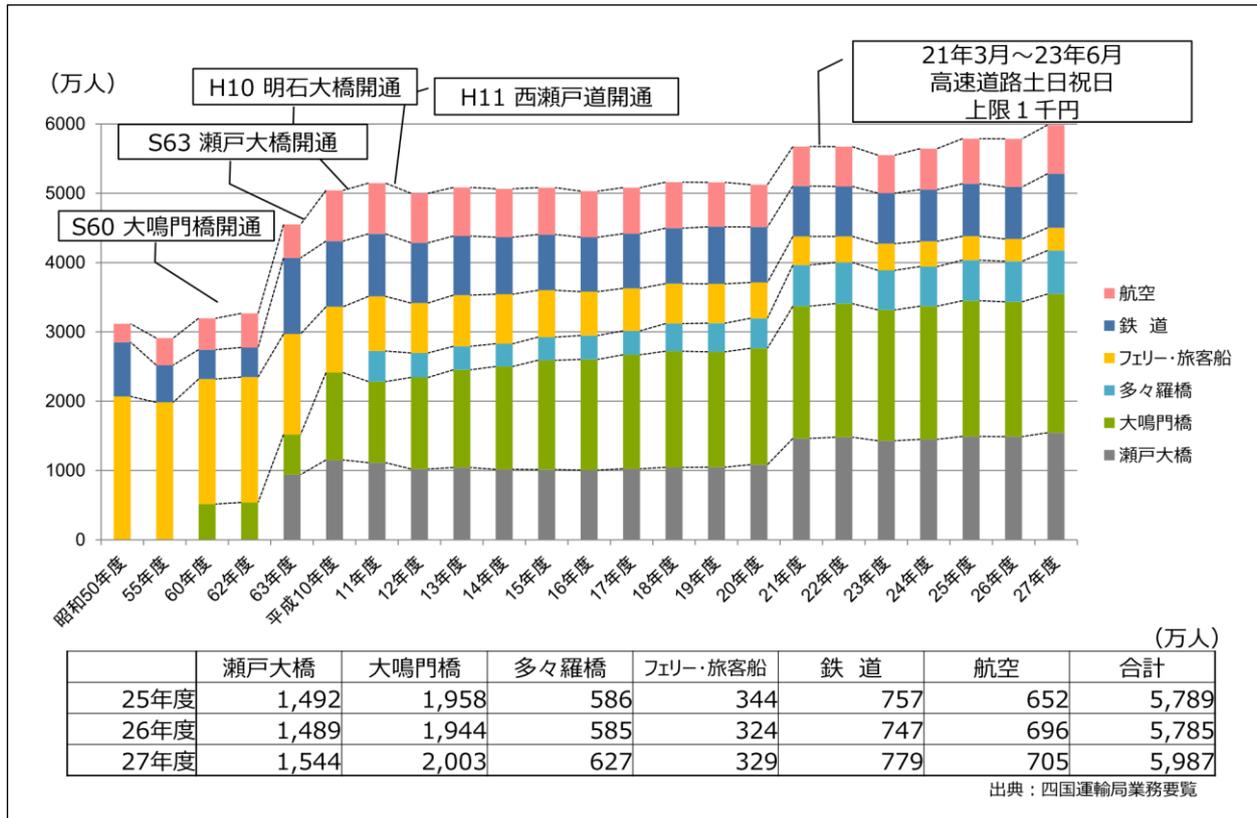
平成28年の外国人延べ宿泊者数は、6,939万人で調査開始以来の最高値で、調査を開始した平成19年と比較すると約3倍となっています。



	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
北海道	2,055,360	1,583,740	2,012,070	3,069,750	3,890,590	5,641,140	6,554,220
東北	505,400	210,030	275,730	349,770	402,050	607,890	725,520
関東	12,764,870	8,275,720	11,751,900	13,912,820	18,709,030	25,220,580	25,797,570
北陸信越	660,830	492,800	669,590	1,112,270	1,286,360	1,935,180	2,247,700
中部	2,010,610	1,294,820	1,820,180	2,285,290	3,083,730	5,465,290	5,383,270
近畿	5,179,790	3,911,350	6,055,070	7,930,960	10,849,890	15,921,840	17,077,320
中国	378,030	313,300	585,590	563,820	689,470	1,166,950	1,372,660
四国	124,790	111,240	184,470	219,980	281,360	441,550	649,900
九州	1,901,030	1,661,940	2,178,540	2,563,340	3,243,580	5,529,320	5,720,990
沖縄	442,260	560,770	781,210	1,487,750	2,388,550	3,684,870	3,859,790

#### (4) その他統計データ

##### ① 四国への交通形態と入込客数



出典：四国運輸局・第3回四国における交通施策のあり方検討会  
「四国における地域交通及び観光の現状等について」  
(<http://www.tb.mlit.go.jp/shikoku/content/000004128.pdf>)

### 3 用語の解説

#### ※1：観光関連事業者

観光関連事業者は、飲食業、観光施設、土産物店・宿泊業者など従来の関連事業者だけでなく、地域を支えている農林水産業、伝統工芸、喫茶店、雑貨屋、情報産業、NPO法人、地域づくり団体、交通関係事業者など、観光の振興を推進する上で関係するすべての主体です。

#### ※2：地域資源

地域資源とは、「その地域ならではのリソース（産業資源）」であり、特産品や観光名所を指します。例えば、地域の自然や歴史・文化の中で育まれた自然の景観や農林水産物、文化財が挙げられます。さらに、暮らしの中で伝えられてきた技術を利用した漆器などの伝統工芸品が挙げられます。

また、地域課題である空き家や耕作放棄地等を有効活用することで、観光振興に利用できる場合は地域資源と考えます。

参照：ミラサポ 未来の企業応援サイト

#### ※3：観光関連組織

観音寺市観光協会、観音寺商工会議所、観音寺市大豊商工会、ホテル旅館業組合・飲食業組合などの観光関連事業者を代表する団体、まちづくり型観光組織、観音寺市（観光部門以外の関係課含む）の総称です。

#### ※4：LCC

LCCとは、ローコストキャリア(Low Cost Carrier)の略称で、効率的な運営により低価格の運賃で運航サービスを提供する航空会社を指す。米国の航空自由化を契機に登場し、世界的に航空規制緩和が進む中で各地に数多く誕生してきた。代表的なLCCには、米国のサウスウエスト航空、英国のイーजीージェット、マレーシアのエアアジアなどがあり、既存の大手航空会社がLCC事業に参入するケースもある。世界的にシェアを伸ばしているが、急成長した会社がある一方で、事業停止や経営破綻(はたん)に追い込まれた企業も多い。

LCCは、独自の事業戦略で、既存の大手航空会社と競争を繰り広げてきた。充実した運航ネットワークや多様なサービスを競ってきた従来の航空会社とは異なるビジネスモデルを採用。特定区間に絞り込んだ路線の設定、使用機種の一貫、大都市周辺の2次的(セカンダリー)空港や使用料の安いLCC専用ターミナルの利用、機内食などのサービスの廃止または有料化、インターネットなどを利用した航空券の直接販売、契約社員の活用などによりコスト削減を図り、格安運賃を可能にした。

日本国内の空港では、2010年3月開港の茨城空港が、航空機とターミナルビルを結ぶボーディング・ブリッジ(搭乗橋)を設けないなど、初の本格的なLCC対応となった。

出典：(株)朝日新聞出版発行「知恵蔵」

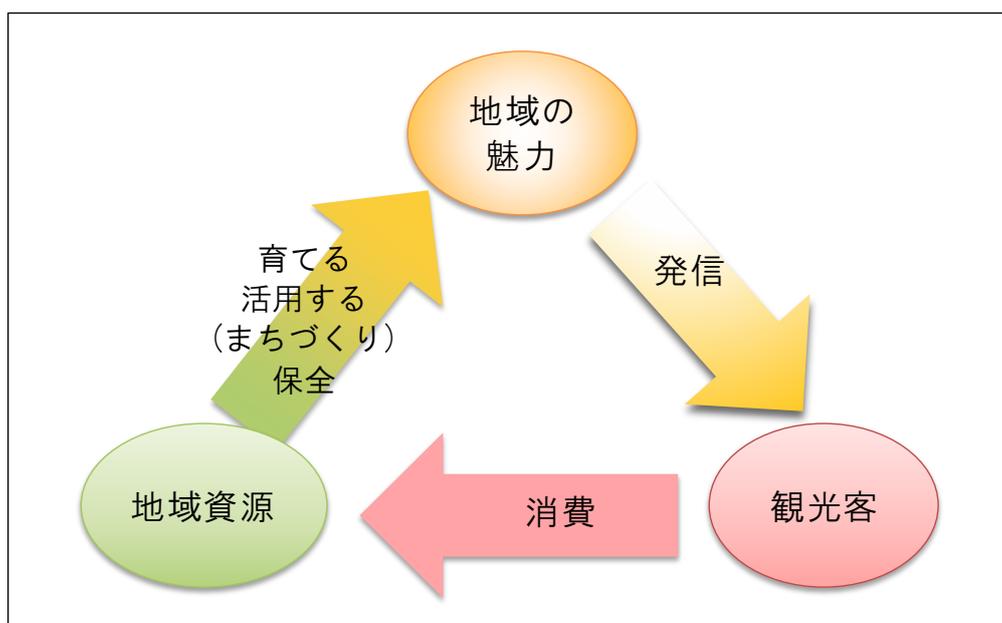
#### ※5：SNS (Facebook、twitter 等)

SNSとは、ソーシャル・ネットワーキング・サービス(Social Networking Service)の略称で、人と人とのつながりを支援するインターネット上のサービス。ネット上に自分の履歴書を書き、共通の趣味などを持つほかの会員たちとメッセージをやり取りしながら、交友を広げられるフェイスブックが代表格。

出典：(株)朝日新聞出版発行「知恵蔵」

#### ※6：まちづくり型観光

まちづくり型観光とは、地域資源に対する市外からの観光消費を促すため、市民や観光関連事業者が地域資源を育て活用することにより地域の魅力をつくり（以下「まちづくり」という。）、その魅力を観光客に発信することです。そして、本市に観光客が訪れ、滞在することによる消費活動から生まれた利益を、地域資源に投資することにより、地域資源の保全を行います。このように、まちづくり型観光は、地域資源を利用し、観光消費が地域の中で循環するための持続可能な観光の形を指します。



観音寺市「まちづくり型観光」のイメージ

#### ※7：まちづくり型観光組織

まちづくり型観光組織は、市民と観光関連事業者が地域資源について理解し、活用方法について協議する機会をつくり、協議に基づき実施する際の支援を行う組織です。

また、市民や観光関連事業者、他の観光関連組織との役割分担の中で、観光客に対する情報発信や地域資源を保全するための投資などの役割を担う場合もあります。

## ※8：二次交通

二次交通とは、拠点となる空港や鉄道の駅から観光地までの交通のこと。地域の観光地は、過疎化により鉄道やバスの便が悪いため、観光を振興させるには、自治体や民間企業が協力し観光地までのシャトルバスや乗り合いタクシーを運行し、レンタル自転車を整備するなど、旅行者の利便性を高める努力が必要となっている。また、観光地域が広域に及ぶ場合や、観光地が隣県の拠点からがむしろ近い場合などは、行政の枠を超えた広域内二次交通の整備が必要視されている。

出典：JTB 総合研究所ホームページ > 観光用語集

## ※9：DMO

DMO (Destination Management Organization: デスティネーション・マネジメント・オーガニゼーション) とは、観光、自然、食、芸術・芸能、風習、風俗など当該地域にある地域資源に精通し、地域と協同して観光地域作りを行う法人のこと。観光庁が規定した日本版 DMO は以下のとおりです。

日本版 DMO は、地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、多様な関係者と協同しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定するとともに、戦略を着実に実施するための調整機能を備えた法人です。

出典：JTB 総合研究所ホームページ > 観光用語集

## ※10：IoT

IoT とは、「モノのインターネット」(Internet of Things) の略称で、建物、電化製品、自動車、医療機器など、パソコンやサーバーといったコンピューター以外の多種多様な「モノ」がインターネットに接続され、相互に情報をやり取りすること。

例えば家庭においては、テレビや冷蔵庫、エアコンなどの電化製品が外出先からコントロールできることなどを指す。他にも、電力メーターがインターネットに接続されれば、電力使用量の収集が自動化され、電力会社は、それら使用量に基づいた発送電コントロールが可能にもなる。

医療現場においては、病院や自宅にある医療機器がインターネットで接続されることで、患者の情報をセンサーで共有できることなどを指す。在宅介護中の患者の情報を自宅から病院に送信することや、異なる病院間で様々な専門医が患者の情報を共有することもできる。このため、在宅医療や遠隔医療が可能となる。

自動車においては、車に搭載されたセンサーや、道路に設置されたカメラなどがインターネットと接続されることで、車同士の情報交換が行えることなどを指す。渋滞などの道路情報の他に、道路の先の障害物情報や天候情報など、運転に関する様々な情報を知ることができる。

米国調査会社のガートナー社は、「2020年には300億個の多種多様なモノがインターネットにつながり、IoTによる経済価値は、1兆9000億ドルに及ぶ」と予測しており、様々な企業や業種において、IoTによる生産性や品質の向上が期待されている。しかし、セキュリティの確保や、標準化、異なる機器間の相互接続や、大量のデータによるネットワークの負荷軽減などといった、各種の課題も残っている。

出典：(株)朝日新聞出版発行「知恵蔵」

#### ※11：MICE

MICEとは、Meeting（会議・研修・セミナー）、Incentivetour（報奨・招待旅行）、Convention又はConference（大会・学会・国際会議）、Exhibition（展示会）の頭文字をとった造語で、ビジネストラベルの一つの形態。参加者が多だけでなく、一般の観光旅行に比べ消費額が大きいことなどから、MICEの誘致に力を入れる国や地域が多い。日本でも、インバウンド振興策の一環として、国や自治体により誘致活動が盛んに行なわれている。

出典：JTB総合研究所ホームページ＞観光用語集

## 計画づくりにご協力いただいた方々

### ■ 策定委員会名簿

(任期：平成 29 年 3 月 15 日～平成 30 年 9 月 31 日)

No	区分		団体役職等	氏名
1	委員	会長	香川大学経済学部准教授	西成 典久
2	委員	副会長	観音寺市観光協会 会長	河田 正行
3	委員		観音寺商工会議所 会頭	守谷 通
4	委員		観音寺市大豊商工会 会長	篠原 公七
5	委員		観音寺商工会議所女性会 会長	合田 朝子
6	委員		観音寺市大豊商工会女性部 部長	矢野 文子
7	委員		観音寺ホテル旅館業組合 組合長	坂本 久幸
8	委員		観音寺商店街連合会 会長	横田 安男
9	委員		エプロンガイドの会 代表	藤田 千鶴子
10	委員		五郷里づくりの会 会長	藤岡 修
11	委員		特定非営利活動団体 コットン 理事長	西原 芳正
12	委員		作業部会 代表	仁田 智之
13	委員		公募委員	大西 やえ子
14	委員		公募委員	平口 照明
15	委員		公募委員	三好 兼光

\* 団体役職等は委嘱日の団体役職を記載 (順不同)

(策定委員会のスケジュール)

開催月	議 事
平成 29 年 3 月	第 1 回策定委員会 ・ 委嘱状の交付 ・ 作業部会の設置について
平成 29 年 5 月	第 2 回策定委員会 ・ 策定スケジュールについて ・ 作業部会の進め方について
平成 29 年 9 月	第 3 回策定委員会 ・ 観音寺市観光基本計画 (案) の枠組みについて
平成 29 年 12 月	第 4 回策定委員会 ・ 観音寺市観光基本計画 (案) の内容について
平成 30 年 8 月	第 5 回策定委員会 ・ パブリック・コメントの実施結果について

■作業部会名簿

No	氏名	No	氏名	No	氏名
1	井元 祐佳	9	曾根 脩平	17	羽原 清祇
2	大西 あゆみ	10	高城 和貴	18	藤原 秀太郎
3	大西 弘家	11	高橋 佳照	19	本田 雅美
4	荻田 賢一	12	高丸 喜広	20	眞鍋 光太郎
5	黒川 真吾	13	土田 和奈	21	三好 優子
6	合田 賢史	14	出口 隆幸	22	安田 有希
7	庄司 真澄	15	中村 小波		
8	白井 瑞樹	16	仁田 智之		

(五十音順)

(作業部会のスケジュール)

開催月	議 事
平成 29 年 4 月	第 1 回作業部会 ・観光に対する共通理解の醸成 (策定委員会、観光まちづくり法人準備会と合同講義)
平成 29 年 5 月	第 2 回作業部会 ・地域観光に関する基礎講義① ・5つのテーマ「歴史・文化」「自然」「食・宿泊」「観光拠点」「体験」ごとに SWOT 分析の実施
平成 29 年 6 月	第 3 回作業部会 ・地域観光に関する基礎講義② ・SWOT 分析結果を共有し、「観音寺市の観光におけるビジョンとミッション」の検討
	第 4 回作業部会 ・地域観光に関する基礎講義③ ・観音寺観光のキャッチフレーズの検討 ・SWOT 分析より課題整理、課題解決策の検討・見える化
平成 29 年 7 月	第 5 回作業部会 ・地域観光に関する基礎講義④ ・本市の特性(強み)の確認 ・観光基本計画の方向性、基本方針について情報共有
	第 6 回作業部会 ・地域観光に関する基礎講義⑤ ・観光基本計画(素案)の目次骨子・概要について共有 ・観音寺観光のキャッチフレーズの再検討 ・観光客へのヒアリング調査の実施方法等について説明
平成 29 年 8 月	第 7 回作業部会 ・地域観光に関する基礎講義⑥ ・観光基本計画の基本理念の検討 ・観光基本計画(素案)について共有
平成 29 年 10 月	第 8 回作業部会 ・観光基本計画(案)について共有 ・作業部会の活動に関する評価アンケート ・今後の取組の検討

## 観音寺市観光基本計画

■発行／観音寺市

〒768-8601 香川県観音寺市坂本町一丁目1番1号

電話：(0875) 23-3933

FAX：(0875) 23-3956

ホームページアドレス：<http://www.city.kanonji.kagawa.jp>

■発行日／平成30年9月